

観光を取り巻く現状

平成28年5月11日

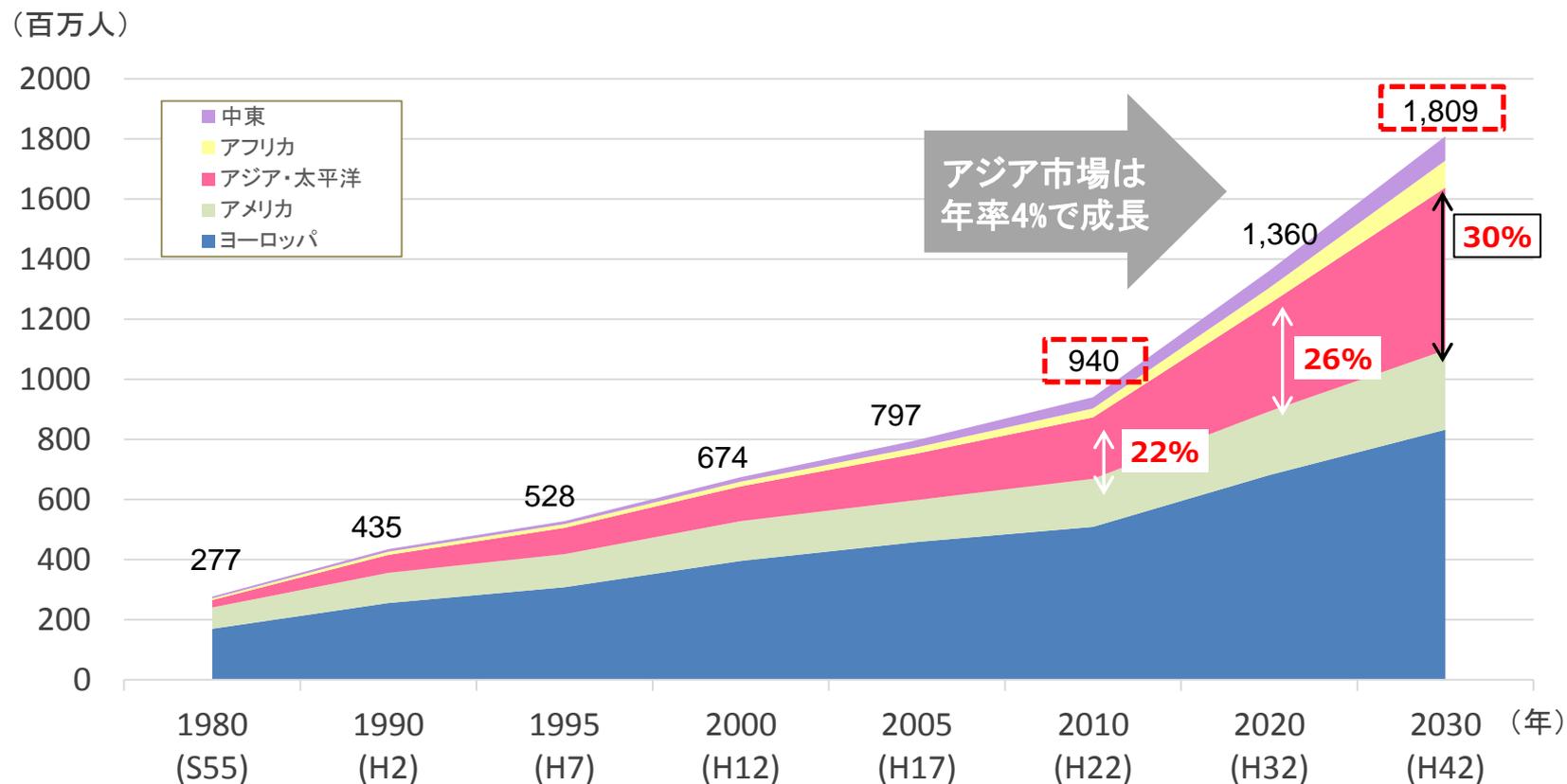
東 京 都

目次

世界の旅行者数の推移（今後の予測）	1
訪日外国人旅行者数の推移	2
国・地域別訪日外国人旅行者数の内訳（2015年）	3
外国人旅行者受入数の国際比較（2014年）	4
空路又は水路による外国人旅行者受入数の国際比較（2013年）	5
日本人出国者数の推移	6
訪都旅行者数の推移	7
訪都外国人旅行者が多く訪れる都内の地域（2014年）	8
国・地域別訪日外国人旅行者のリピーター割合（2015年）	9
国際旅行収支の推移	10
訪日・訪都外国人旅行者の消費額推移及び国内・訪都日本人旅行者の消費額推移	11
国・地域別訪日外国人旅行者消費額の割合	12
国・地域別の費目別一人当たり旅行消費額上位10位（2014年）	13
訪日・訪都外国人旅行者一人当たりの旅行消費額の推移	14
都内延べ宿泊者数の推移及び都内宿泊施設の客室稼働率推移	15
都内宿泊施設数・客室数の推移	16
ビザ緩和の変遷	17
空海港別の入国外国人数の推移	18
LCCの概況	19
世界のクルーズ人口の推移	20
クルーズ船による外国人入国者数	21
国内港湾へのクルーズ船寄港回数の推移	22
国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移（外国船社）	23
国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移（外国船社及び日本船社）	24
国内における海外発行クレジットカード対応ATMの設置状況	25
近年における都内の主な外資系ホテルの新規開業状況	26
世界各都市における国際会議の開催件数の推移	27
訪都外国人旅行者の情報収集方法の変遷	28
外国人旅行者が旅行中に困ったこと（2015年）	29
西多摩地域の入込観光客数の推移	30
伊豆諸島・小笠原諸島年次別観光客数推移	31
世界の人気観光都市ランキング2016	32
Travel + LeisureWorldベストアワード2015	33

世界の旅行者数の推移(今後の予測)

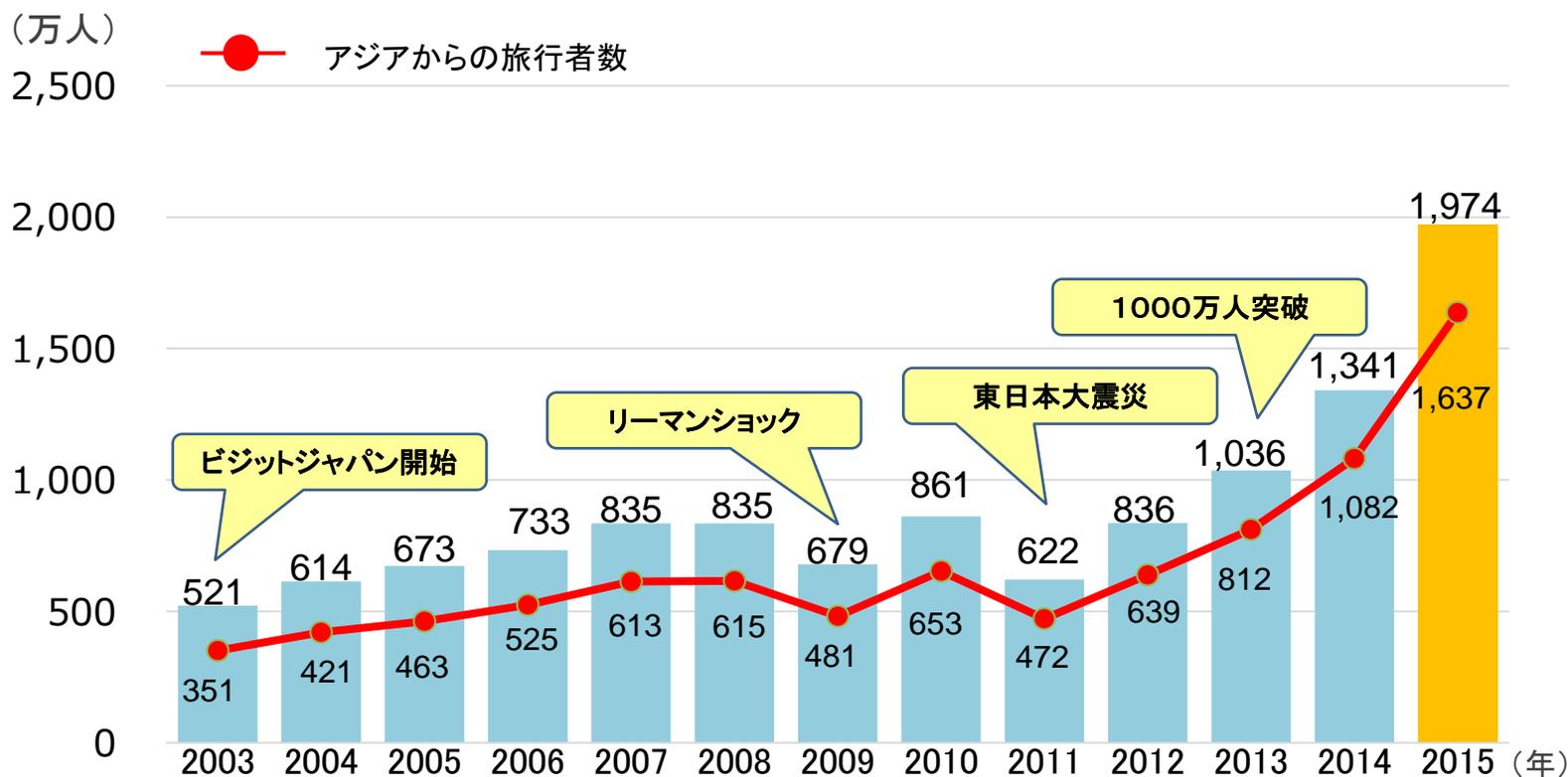
- 全世界の旅行者数は増加傾向にあり、2010年には約9.4億人に達している。
- **2030年には約18.1億人と、2010年の2倍程度に増加**することが予測されている。



出典:「Tourism Towards 2030」(世界観光機関)

訪日外国人旅行者数の推移

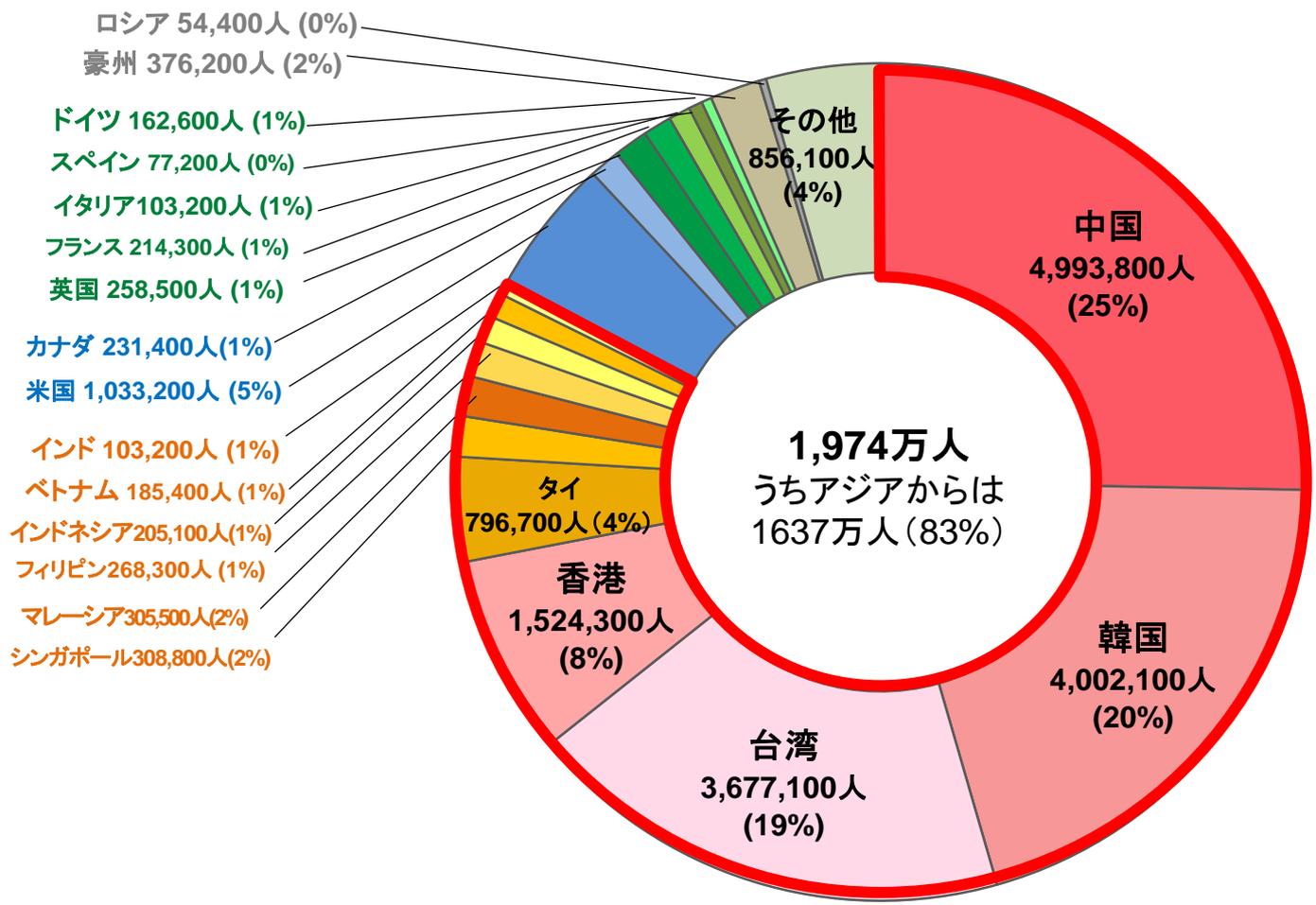
- 2015年の訪日外国人旅行者数は**過去最高の約1,974万人**となり、国が2020年までの目標として掲げる2,000万人をほぼ達成
- 訪日外国人旅行者数は**この10年間で約3倍に増加**



注: 2015年のアジアからの旅行者数は、平成28年1月に公表されている国・地域の数値のみを積算

国・地域別訪日外国人旅行者数の内訳(2015年)

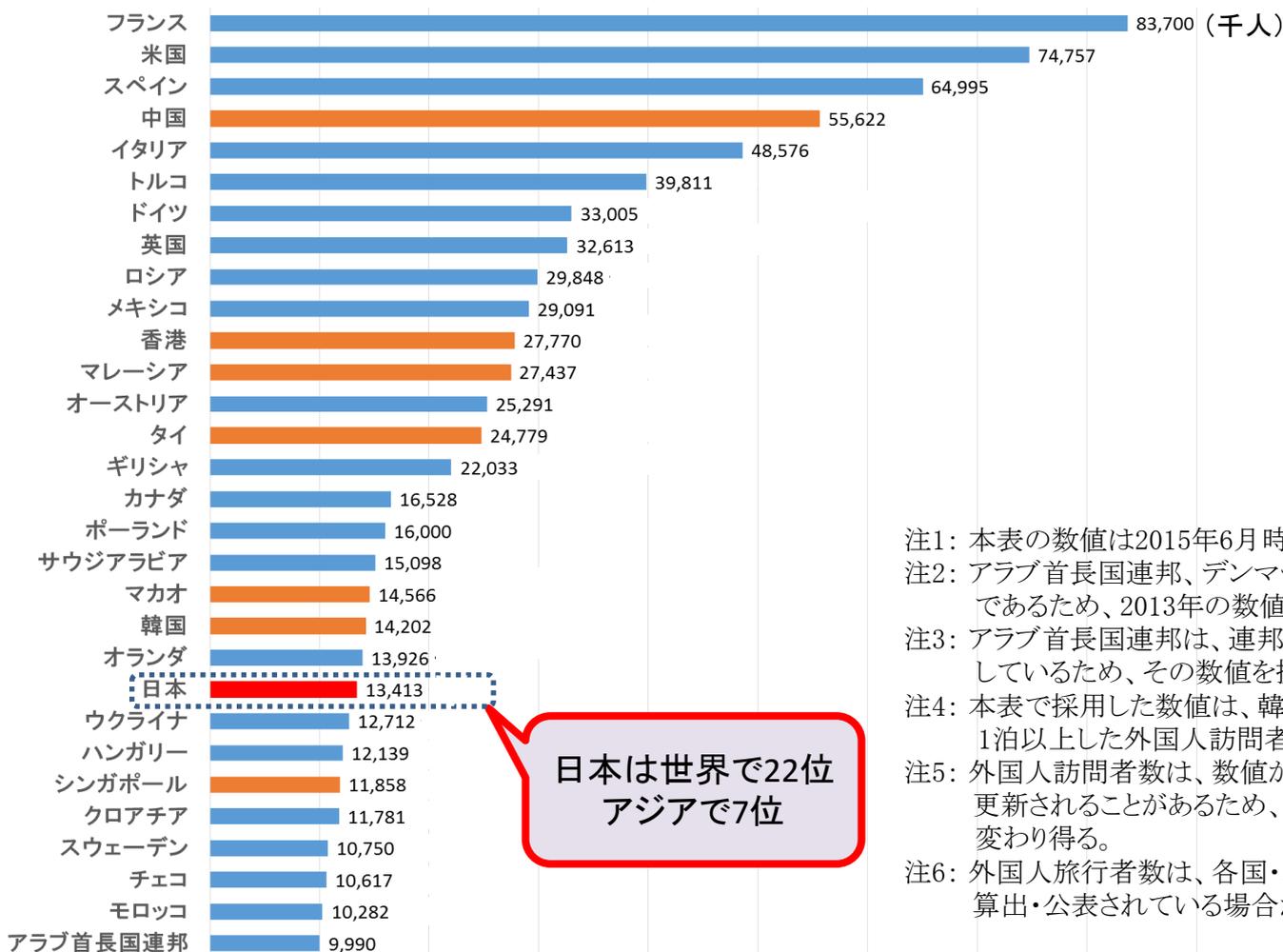
➤ 2015年の訪日外国人旅行者の内訳は、中国、韓国、台湾などの**アジアからの旅行者**が全体の**83%**を占める



出典: JNTO「訪日外客数の動向」、「平成27年 訪日外客数・出国日本人数」をもとに作成。数値は推計値。

外国人旅行者受入数の国際比較(2014年)

➤ 2014年の日本における外国人旅行者受入数は1,341万人で、**世界で22位**（アジアで7位）



日本は世界で22位
アジアで7位

注1: 本表の数値は2015年6月時点の暫定値。

注2: アラブ首長国連邦、デンマーク、アイルランドは、2014年の数値が不明であるため、2013年の数値を採用。

注3: アラブ首長国連邦は、連邦を構成するドバイ首長国のみの数値が判明しているため、その数値を採用。

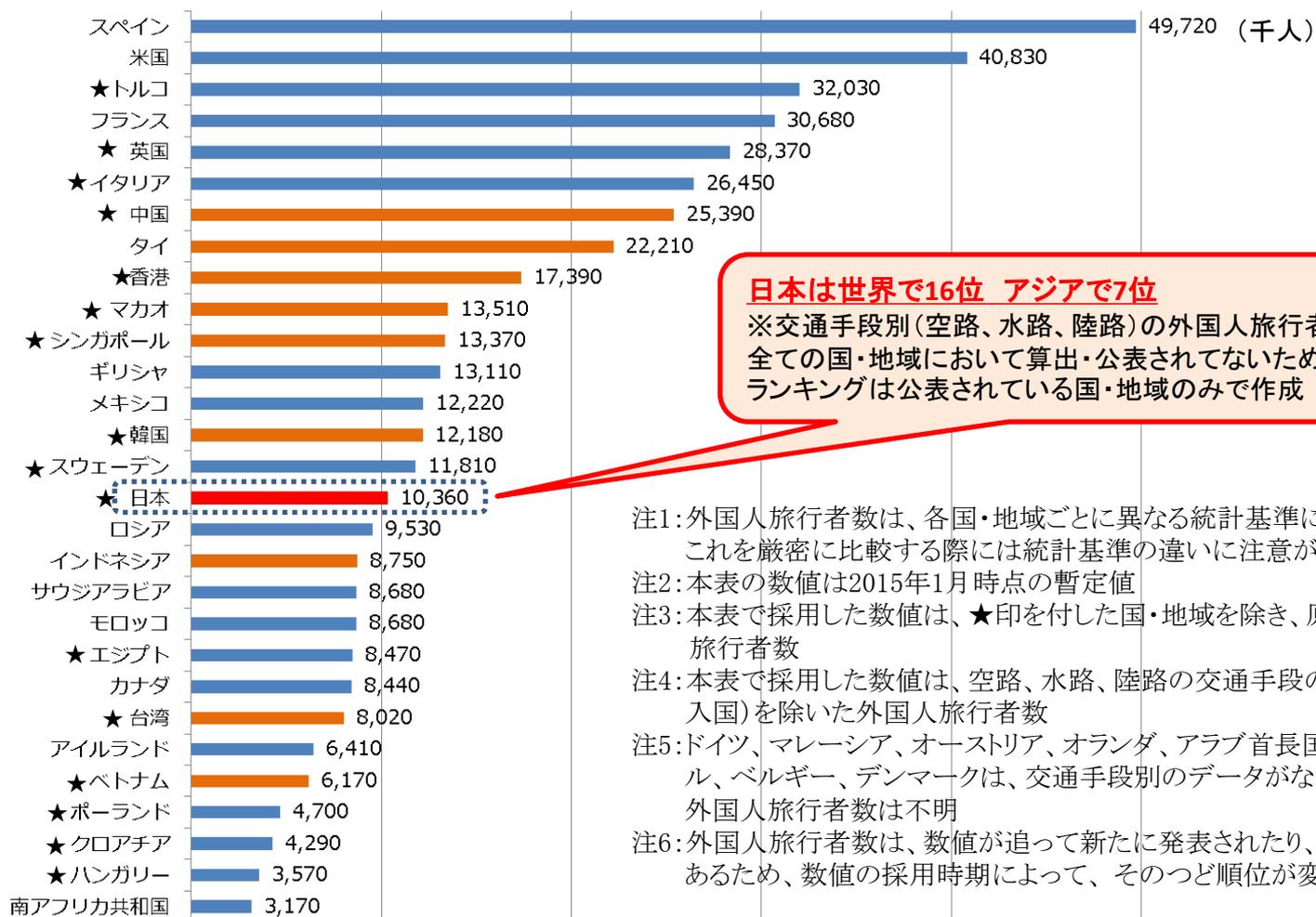
注4: 本表で採用した数値は、韓国、日本、台湾、ベトナムを除き、原則的に1泊以上した外国人訪問者数。

注5: 外国人訪問者数は、数値が追って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る。

注6: 外国人旅行者数は、各国・地域ごとに日本とは異なる統計基準により算出・公表されている場合がある。

空路又は水路による外国人旅行者受入数の国際比較(2013年)

- 2013年の日本における空路・水路の受入数は1,036万人で、**世界で16位**（アジアで7位）
- 世界の観光先進国であるイギリスやイタリアも空路・水路による受入数は2000万人台

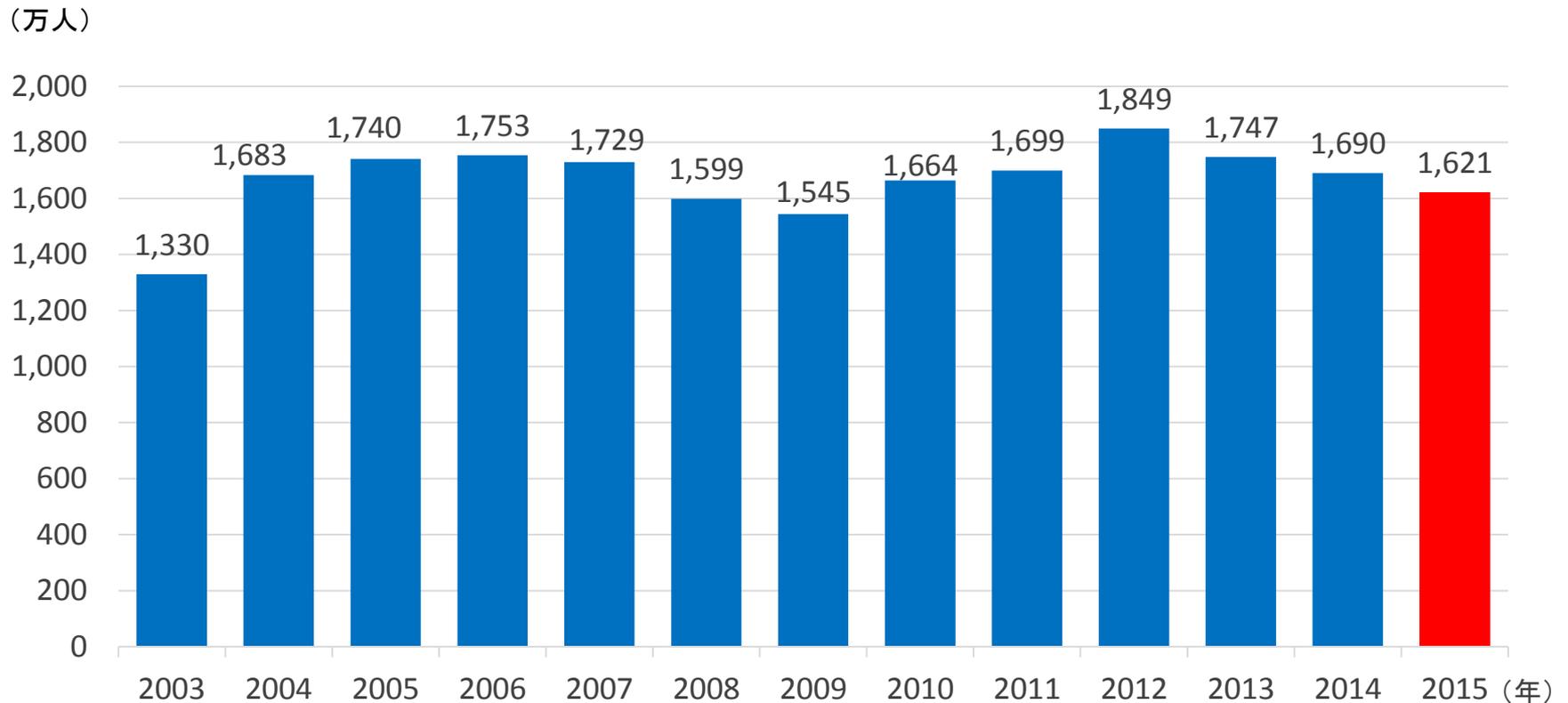


日本は世界で16位 アジアで7位
 ※交通手段別(空路、水路、陸路)の外国人旅行者数は、全ての国・地域において算出・公表されていないため、本ランキングは公表されている国・地域のみで作成

- 注1: 外国人旅行者数は、各国・地域ごとに異なる統計基準により算出・公表されているため、これを厳密に比較する際には統計基準の違いに注意が必要
- 注2: 本表の数値は2015年1月時点の暫定値
- 注3: 本表で採用した数値は、★印を付した国・地域を除き、原則的に1泊以上した外国人旅行者数
- 注4: 本表で採用した数値は、空路、水路、陸路の交通手段のうち、陸路(自動車等による入国)を除いた外国人旅行者数
- 注5: ドイツ、マレーシア、オーストリア、オランダ、アラブ首長国連邦、チェコ、スイス、ポルトガル、ベルギー、デンマークは、交通手段別のデータがないため、空路又は水路による外国人旅行者数は不明
- 注6: 外国人旅行者数は、数値が追って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、そのつど順位が変わり得る

日本人出国者数の推移

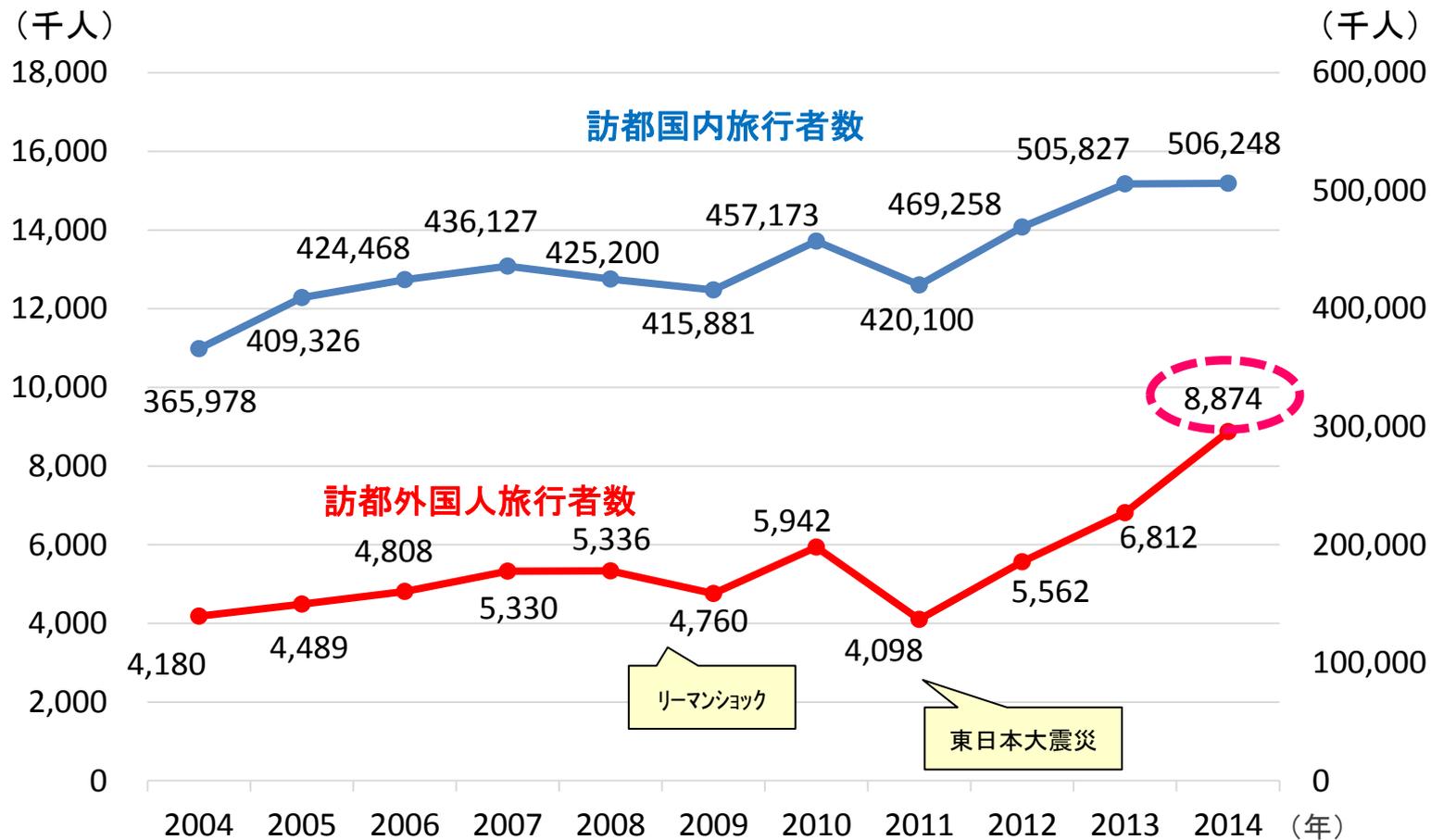
➤ 2015年の日本人出国者数は1,621万人となり、3年連続で減少



出典: 日本政府観光局 (JNTO)

訪都旅行者数の推移

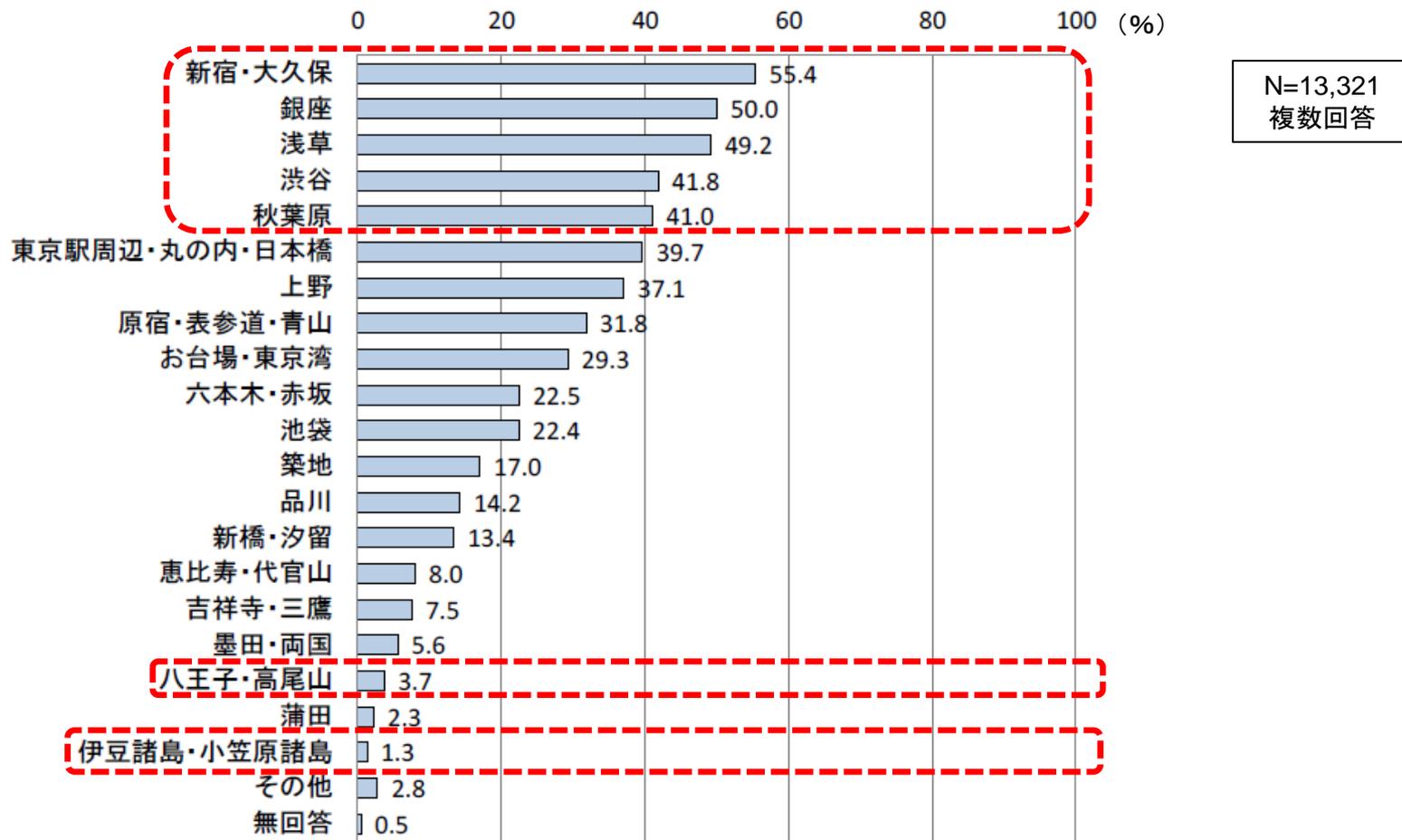
- 2014年の訪都外国人旅行者数は約887万人で、この10年間で約2倍に増加
- 訪都国内旅行者数も増加傾向にあるが、2013年以降は約5億6百万人と横ばいの状況



出典：「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

訪都外国人旅行者が多く訪れる都内の地域(2014年)

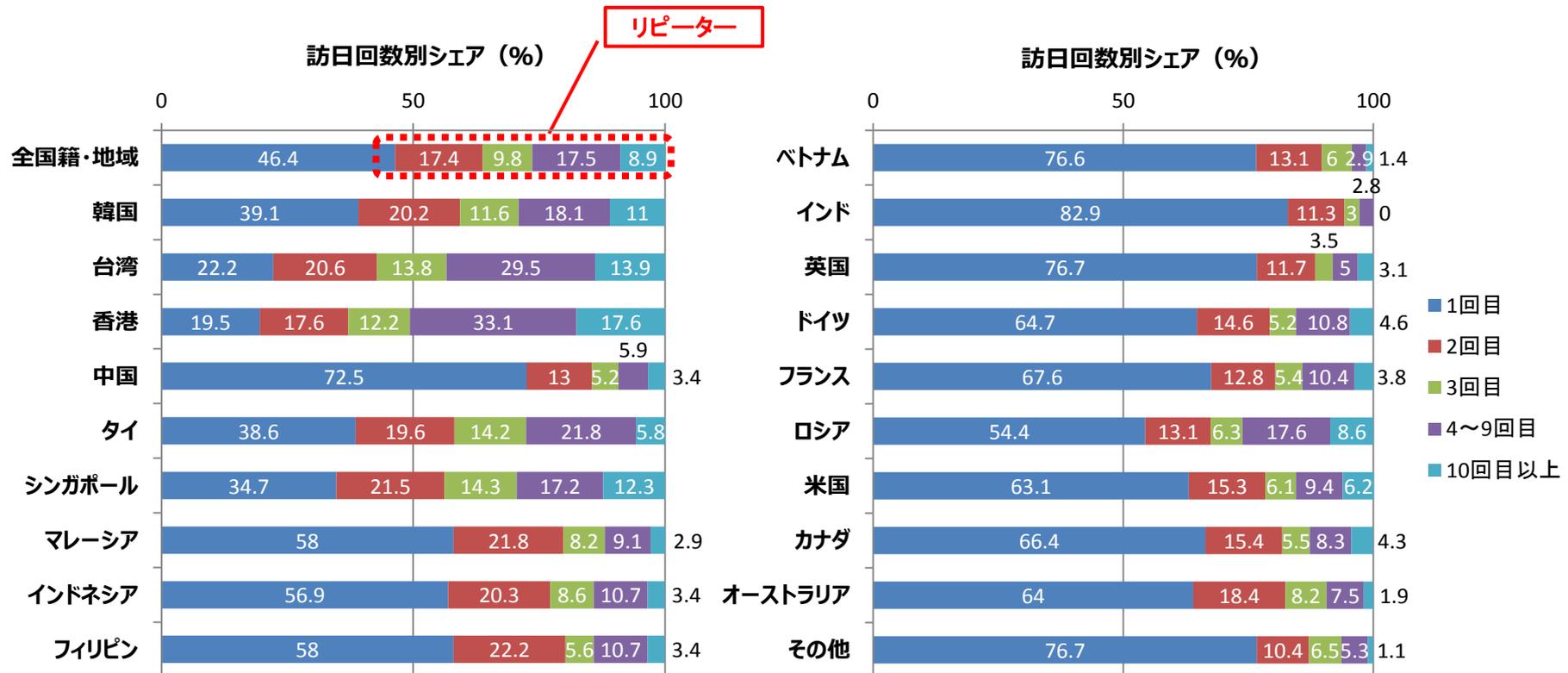
- 訪都外国人旅行者が多く訪れた地域は、①新宿・大久保、②銀座、③浅草、④渋谷、⑤秋葉原の順で、都心部が中心となっている。
- 都心部と比べ、**多摩・島しょ部への送客は進んでいない。**



出典:平成26年度 国別外国人行動特性調査報告書(東京都)

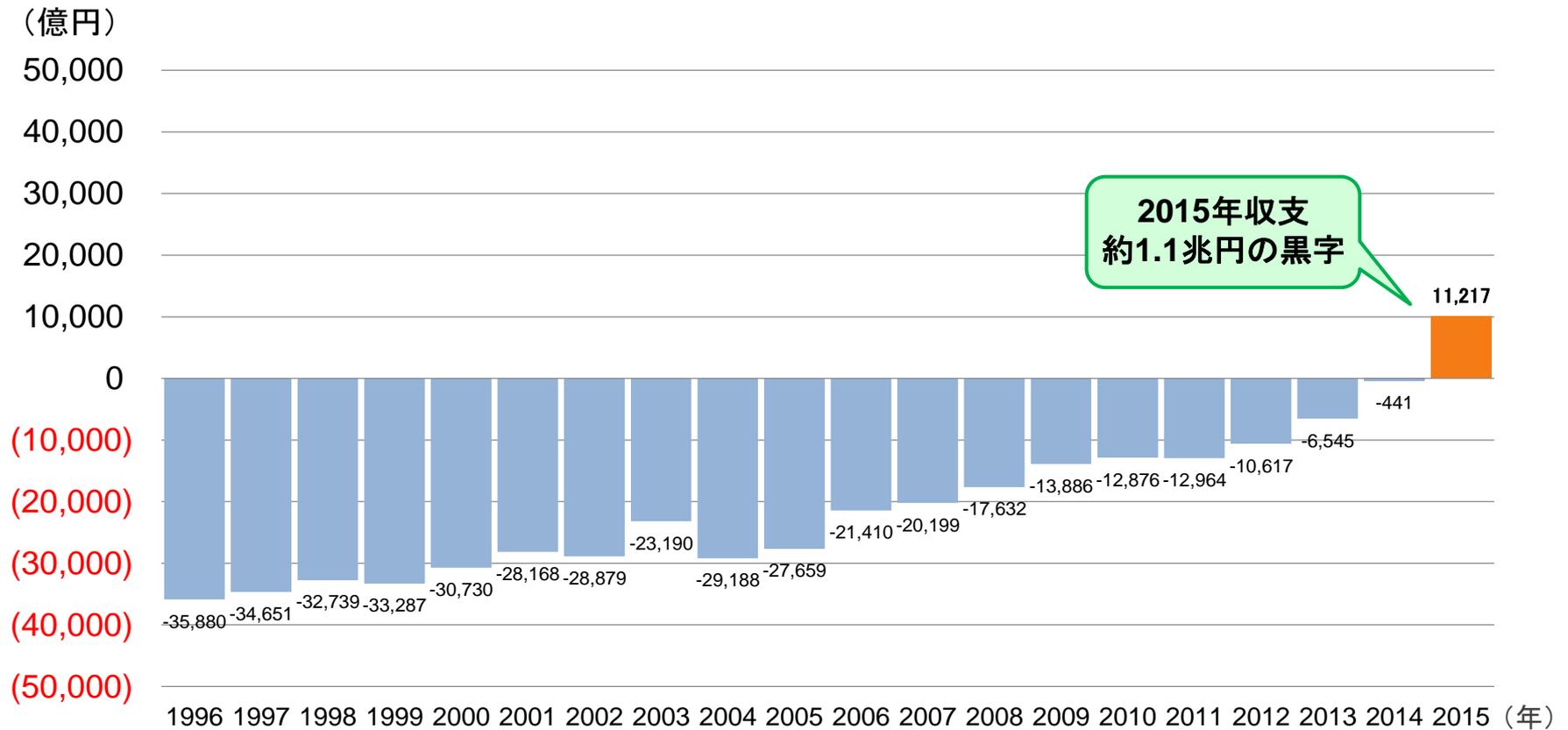
国・地域別訪日外国人旅行者のリピーター割合（2015年）

- 訪日外国人旅行者の**約5割はリピーター**が占める。
- リピーター率の高い国・地域は、香港、台湾、シンガポールであり、**中国は初めて訪日する旅行者が72.5%と、新規訪日客が多い。**



国際旅行収支の推移

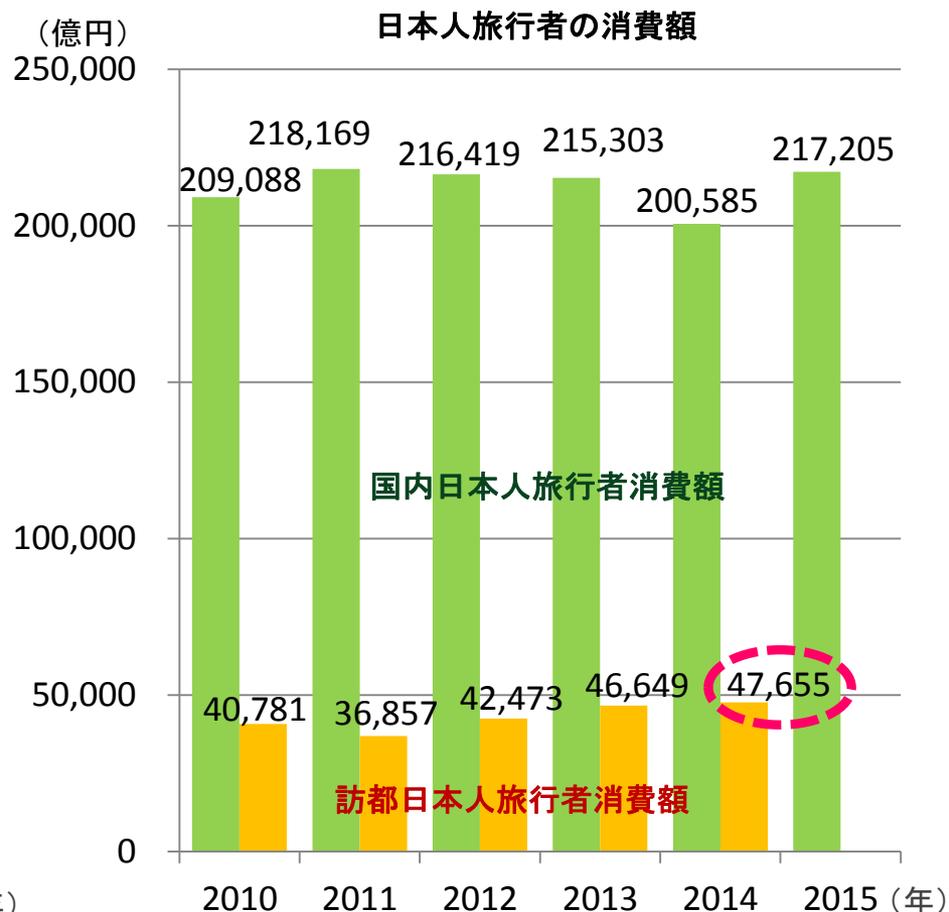
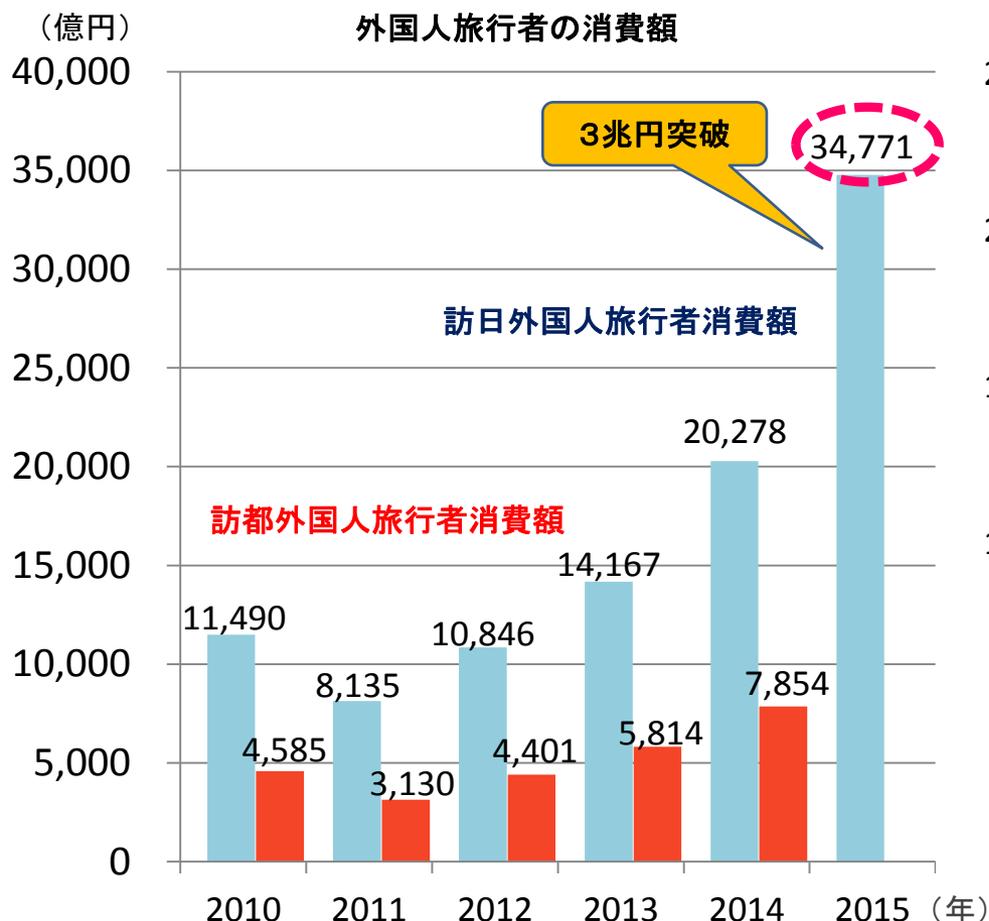
➤ 国際旅行収支は恒常的に赤字が続いていたが、2015年は1962年以来53年ぶりに**黒字化を達成**



出典:「国際収支統計」(財務省)

訪日・訪都外国人旅行者の消費額推移及び国内・訪都日本人旅行者の消費額推移

- 2015年の訪日外国人の旅行消費額は、前年比71.5%増の**3兆4,771億円**で、**初めて3兆円を突破**
- 2014年の訪都日本人旅行者の旅行消費額は**4兆7,655億円**で、2011年以降は増加傾向

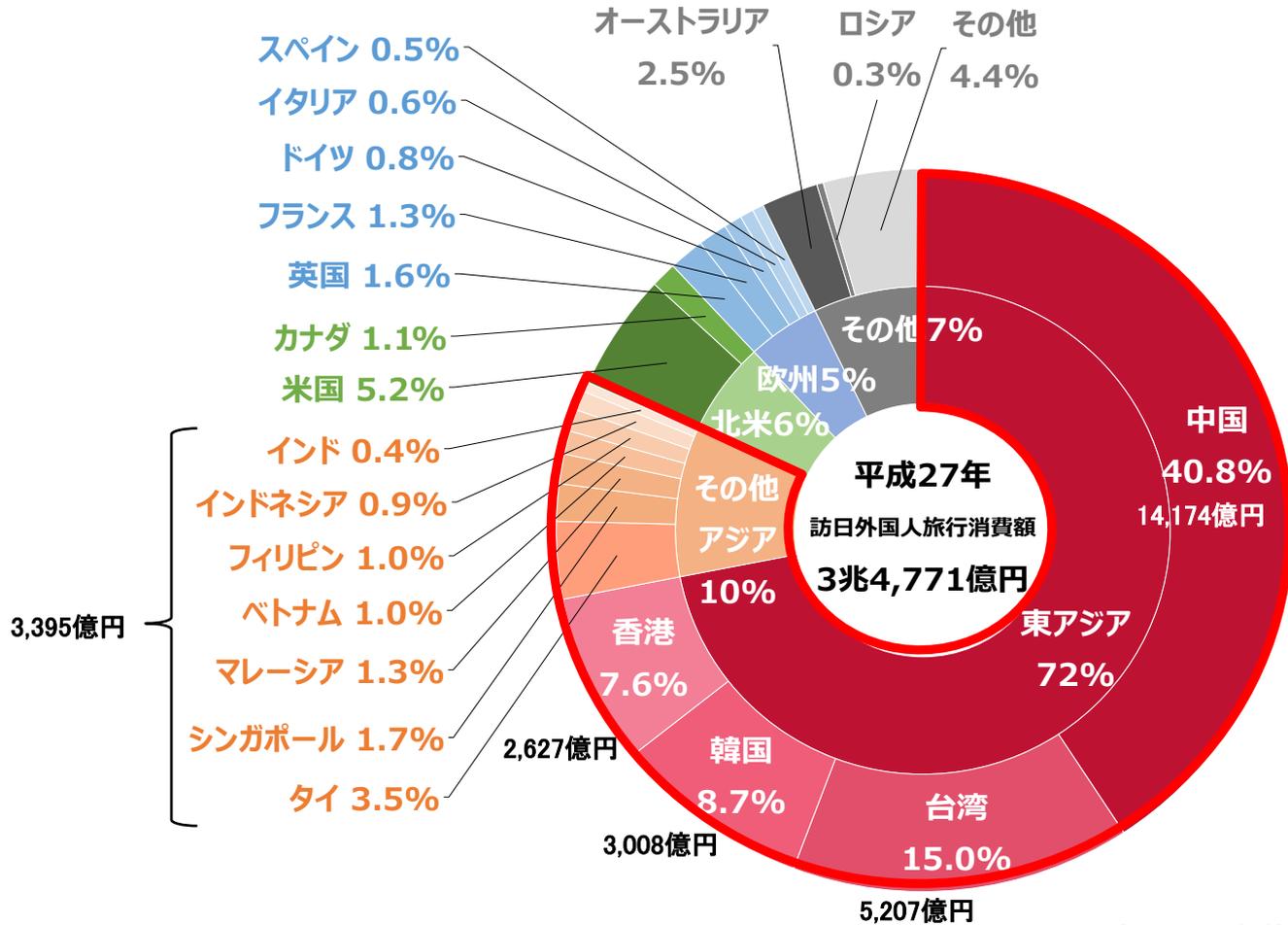


注: 訪都外国人旅行者、訪都日本人旅行者の消費額(2015年)の年計は、H28年夏頃公表予定

出典: 「訪日外国人消費動向調査」(観光庁)、「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

国・地域別訪日外国人旅行者消費額の割合

- アジアからの旅行者の消費額は、約2兆8411億円で**全体の8割**を占めた。
- 国・地域別では、**中国が初めて1兆円を超え、総額の4割**を占めた。



注:平成27年の数値は速報値

出典:「訪日外国人消費動向調査」(観光庁)

国・地域別の費目別一人当たり旅行消費額上位10位（2015年）

- 中国などアジアからの旅行者は**買物代**の消費が多く、欧米豪は**宿泊料金**や**交通費**の消費が多い。

単位：(円/人)

旅行支出総額		宿泊料金		飲食費		交通費		娯楽サービス費		買物代		
1	中国	283,842	英国	97,220	オーストラリア	52,927	スペイン	45,109	オーストラリア	14,079	中国	161,973
2	オーストラリア	231,349	オーストラリア	91,177	スペイン	51,629	イタリア	38,393	フランス	9,169	ベトナム	75,164
3	スペイン	227,288	フランス	84,677	イタリア	49,158	フランス	36,968	カナダ	8,652	香港	72,145
4	英国	210,681	スペイン	84,472	英国	46,367	オーストラリア	36,338	スペイン	8,424	シンガポール	60,415
5	フランス	209,333	イタリア	78,102	中国	42,307	ドイツ	34,755	ロシア	8,193	台湾	59,500
6	イタリア	202,077	米国	74,017	フランス	41,704	カナダ	31,107	ドイツ	7,783	ロシア	54,270
7	ベトナム	194,840	ドイツ	69,160	ベトナム	41,368	英国	29,667	中国	6,308	タイ	53,694
8	シンガポール	187,383	シンガポール	63,677	米国	40,889	米国	25,465	マレーシア	6,242	マレーシア	49,454
9	ロシア	182,484	カナダ	60,886	シンガポール	38,761	ロシア	24,538	英国	6,188	フィリピン	42,809
10	米国	175,554	ロシア	59,267	インド	36,729	インドネシア	24,327	米国	5,883	インドネシア	40,338

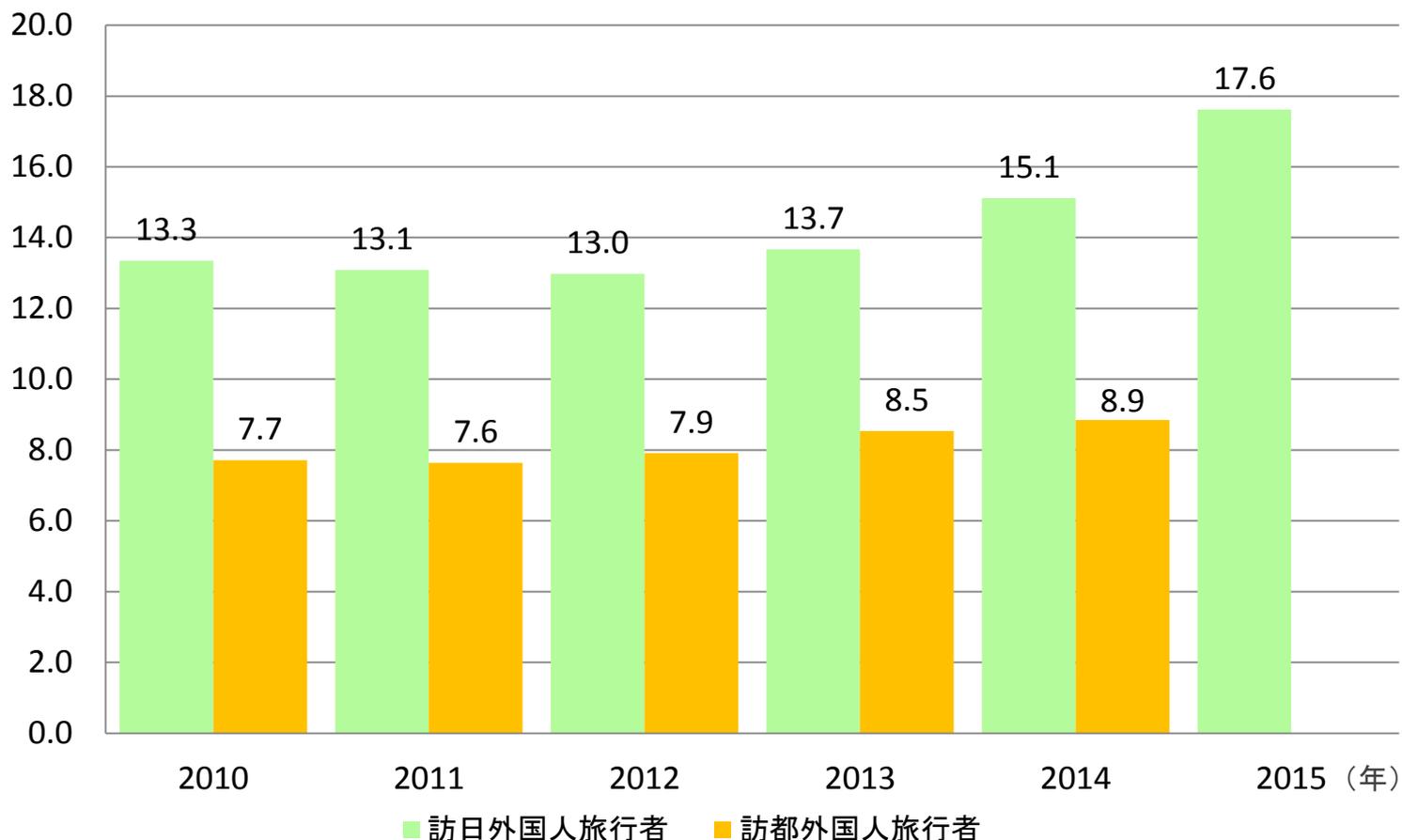
東アジア その他アジア 欧米豪

出典：「訪日外国人消費動向調査」(観光庁)

訪日・訪都外国人旅行者一人当たりの旅行消費額の推移

- 2015年の訪日外国人一人当たり旅行支出は17万6167円と、前年に比べ**16.5%増加**
- 訪都外国人の旅行支出も増加傾向にあり、2014年は**約8万9000円と過去最高を記録**

(万円/人回)

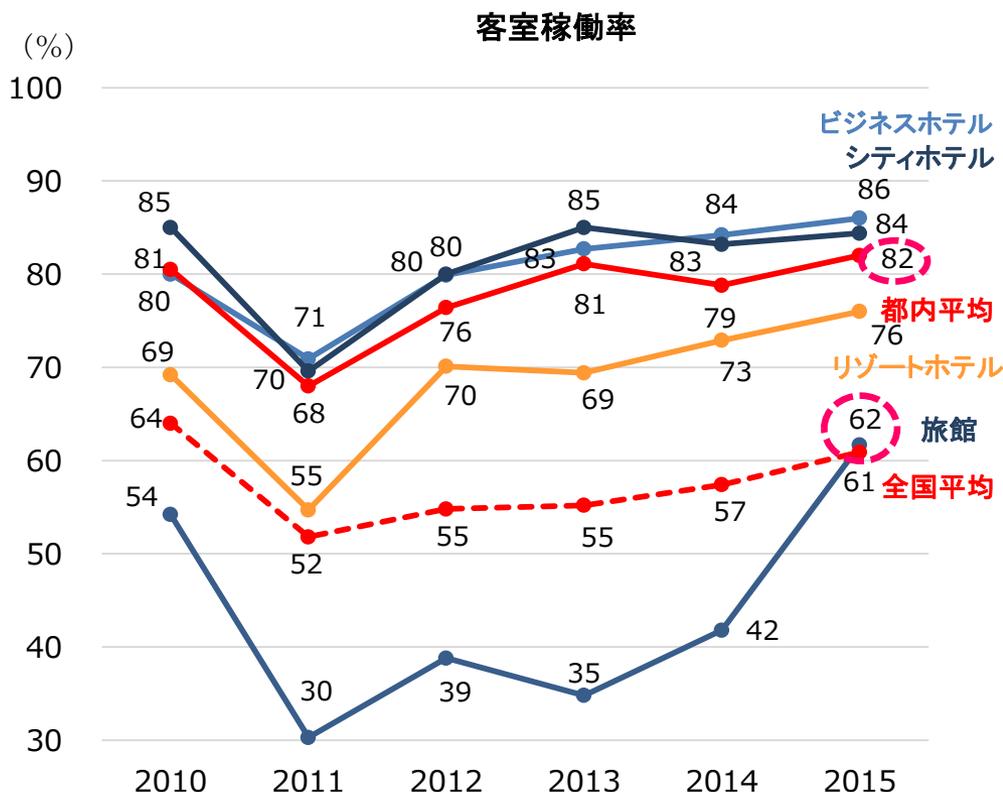
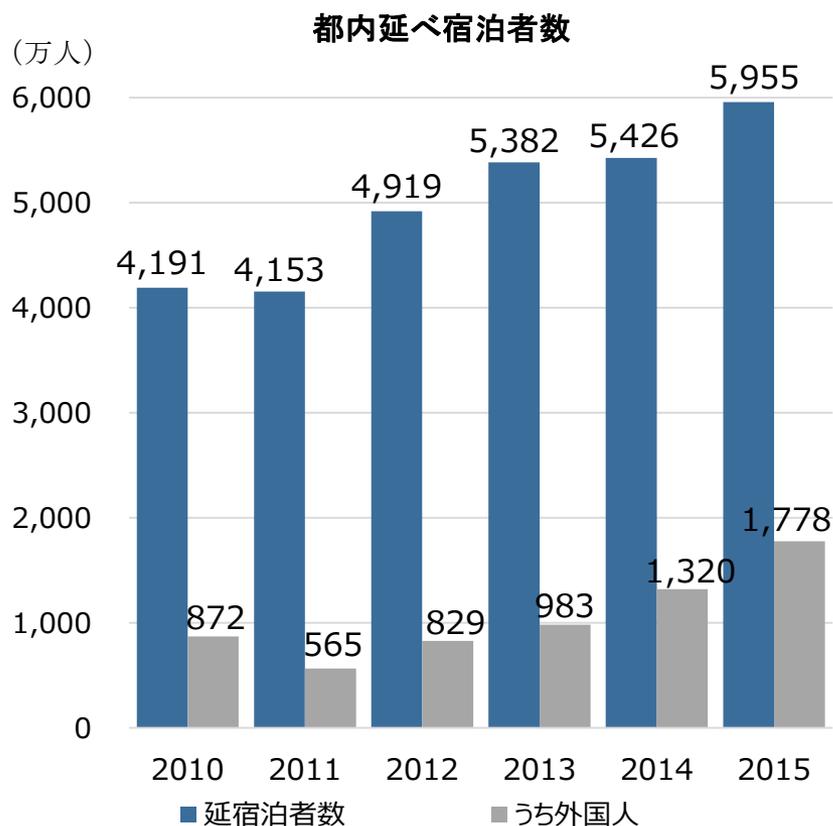


注: 訪都外国人旅行者消費額(2015年)の年計は、H28年夏頃公表予定

出典:「訪日外国人消費動向調査」(観光庁)、「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

都内延べ宿泊者数の推移及び都内宿泊施設の客室稼働率推移

- 2015年の都内延べ外国人宿泊者数は約1,778万人であり、2011年から増加傾向
- 2015年の都内ホテルの稼働率は約8割に達しているが、旅館の稼働率は約6割に留まる



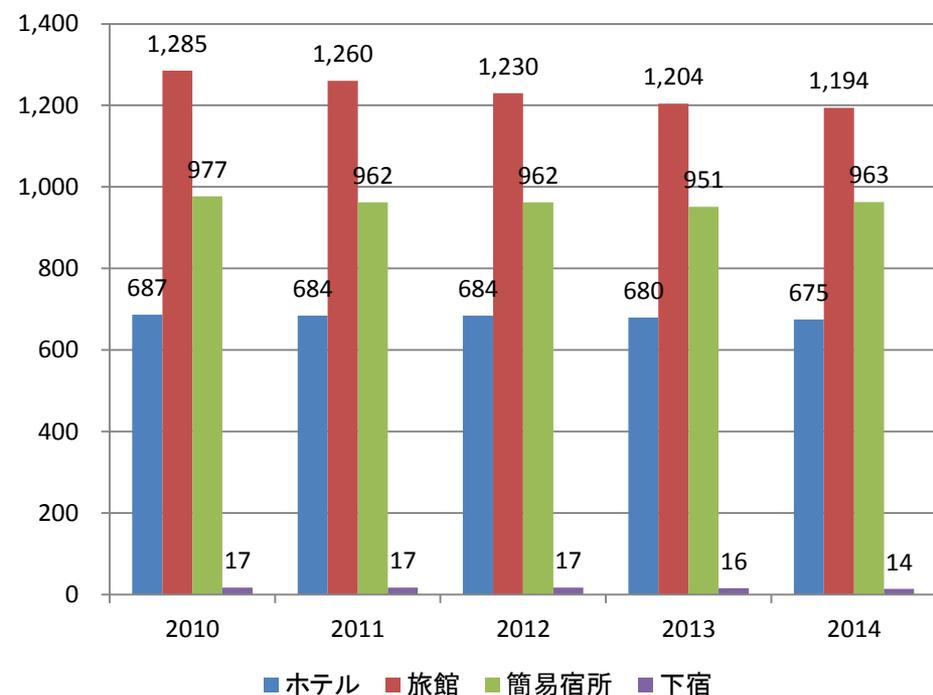
注: 2015年の値は速報値

出典:「宿泊旅行統計調査(観光庁)」

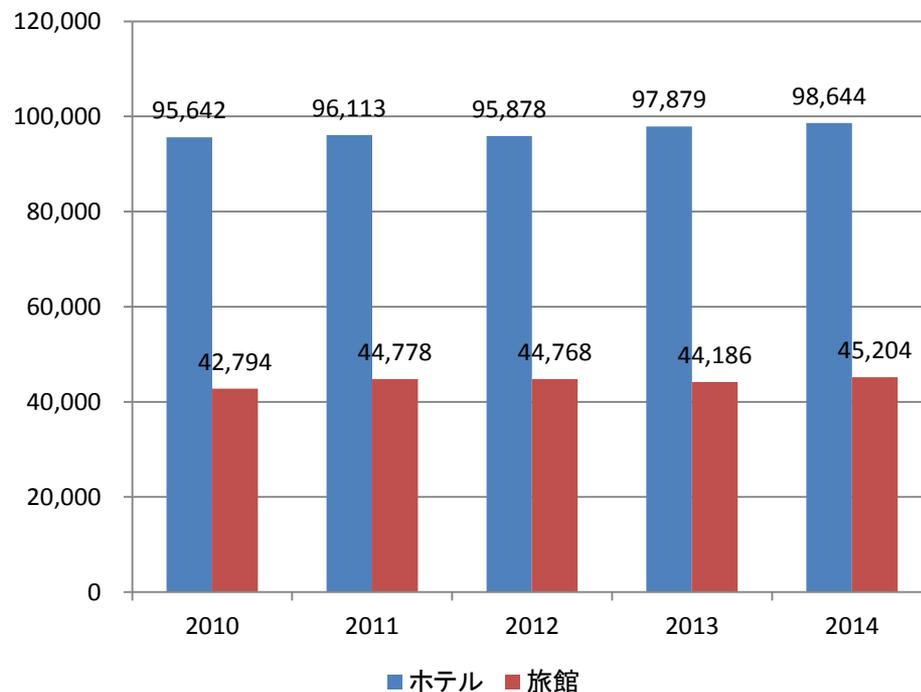
都内宿泊施設数・客室数の推移

- ホテル・旅館の施設数はやや減少傾向にあり、2014年度はそれぞれ**675施設**・**1,194施設**となっている。
- 一方、客室数は増加傾向にあり、2010年と2014年を比べると、**ホテルは約3,000室**・**旅館は約2,400室増加**している。

都内宿泊施設数



都内宿泊施設の客室数



出典:「衛生行政報告例(年度報)」(厚生労働省)

ビザ緩和の変遷

➤ アジア諸国等に対するビザ要件の緩和が進んでおり、**訪日客の増加**につながっている。

＜主なビザ緩和の事例＞

国	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
中国	団体	観光ビザ発給開始					発給地域全国化										
	個人											数次(沖縄)	数次(東北三県)				
香港					免除												
韓国						免除											
台湾						免除											
タイ													数次	免除			
シンガポール	免除済み																
マレーシア													数次	免除			
インドネシア													数次		免除		
フィリピン														数次			
ベトナム														数次			
ミャンマー															数次		
カンボジア														数次			
ラオス														数次			
インド															数次		
ブラジル																数次	

	2013年		2014年	
	人数	対前年比	人数	対前年比
タイ	453,642人	74.0%	657,560人	45.0%
マレーシア	176,521人	35.6%	249,521人	41.4%
インドネシア	136,797人	34.8%	158,739人	16.0%
フィリピン	108,351人	27.4%	184,204人	70.0%
ベトナム	84,469人	53.1%	124,266人	47.1%
インド	75,095人	9.0%	87,967人	17.1%

※ミャンマー、カンボジア、ラオスのデータはなし

今後の動き

◆ ベトナム及びインド

2016年2月15日から、ベトナム及びインド各国民の商用目的の方や文化人・知識人に対する短期滞在（数次ビザ）の緩和措置が開始。

具体的には、

- ・ ビザ発給要件の緩和
- ・ 有効期間を最長10年に延長

◆ ブラジル

2016年2月2日に、短期滞在数次査証に関する覚書が署名された。

具体的には、

- ・ 有効期間を最長3年
- ・ 一回の滞在可能期間を最長90日

○ **数次ビザ**：有効期限が切れるまでは何度でも入国可能なビザ

○ **一次ビザ**：一回限り有効で、都度申請が必要なビザ

空海港別の入国外国人数の推移

- 2015年（注）の入国外国人数（約1793万人）のうち、**成田空港、関西空港、羽田空港（入国者数上位3空港）の利用者（約1241万人）**は、全体の**約7割**を占めている。
- 一方、2015年（注）の東京港からの入国外国人数はわずか59人と少ない。

入管データのため
寄港者数とは異なる

空海港別の入国外国人数の推移

単位: 万人 単位: 人

年	新千歳空港	茨城空港	羽田空港	成田空港	中部空港	関西空港	福岡空港	那覇空港	その他の空港	その他の海港	計	東京港
2006	26.7 (3.3%)	-	34.4 (4.2%)	401.6 (49.5%)	51.6 (6.4%)	147.1 (18.1%)	38.7 (4.8%)	6.5 (0.8%)	54.2 (6.7%)	50.1 (6.2%)	810.8	548
2007	30.1 (3.3%)	-	44.1 (4.8%)	437.6 (47.8%)	59.6 (6.5%)	164.7 (18.0%)	43.3 (4.7%)	8.4 (0.9%)	60.8 (6.6%)	66.6 (7.3%)	915.2	496
2008	31.1 (3.4%)	-	53.3 (5.8%)	428.3 (46.8%)	59.6 (6.5%)	164.1 (17.9%)	42.6 (4.7%)	10.6 (1.2%)	55.0 (6.0%)	69.8 (7.6%)	914.5	720
2009	29.8 (3.9%)	-	51.2 (6.8%)	378.9 (50.0%)	41.5 (5.5%)	134.9 (17.8%)	32.0 (4.2%)	8.8 (1.2%)	37.6 (5.0%)	43.4 (5.7%)	758.1	521
2010	36.3 (3.8%)	2.5 (0.3%)	75.1 (8.0%)	419.6 (44.4%)	50.7 (5.4%)	174.5 (18.5%)	48.4 (5.1%)	14.0 (1.5%)	53.0 (5.6%)	70.2 (7.4%)	944.3	563
2011	29.0 (4.1%)	1.9 (0.3%)	90.8 (12.7%)	282.0 (39.5%)	41.7 (5.8%)	133.9 (18.8%)	40.7 (5.7%)	16.3 (2.3%)	32.0 (4.5%)	45.3 (6.3%)	713.5	314
2012	39.0 (4.3%)	2.8 (0.3%)	109.8 (12.0%)	356.2 (38.8%)	47.6 (5.2%)	179.2 (19.5%)	56.1 (6.1%)	23.1 (2.5%)	43.0 (4.7%)	60.4 (6.6%)	917.2	933
2013	50.6 (4.5%)	3.3 (0.3%)	129.3 (11.5%)	426.3 (37.9%)	57.4 (5.1%)	232.3 (20.6%)	68.7 (6.1%)	37.4 (3.3%)	58.4 (5.2%)	61.8 (5.5%)	1125.5	184
2014	66.2 (4.7%)	4.0 (0.3%)	175.2 (12.4%)	493.2 (34.9%)	69.9 (4.9%)	317.0 (22.4%)	88.4 (6.2%)	65.3 (4.6%)	71.9 (5.1%)	63.9 (4.5%)	1415.0	374
2015	83.4 (4.6%)	5.4 (0.3%)	223.0 (12.4%)	561.4 (31.3%)	92.5 (5.2%)	456.3 (25.5%)	125.0 (7.0%)	98.7 (5.5%)	94.3 (5.3%)	52.8 (2.9%)	1792.8	59

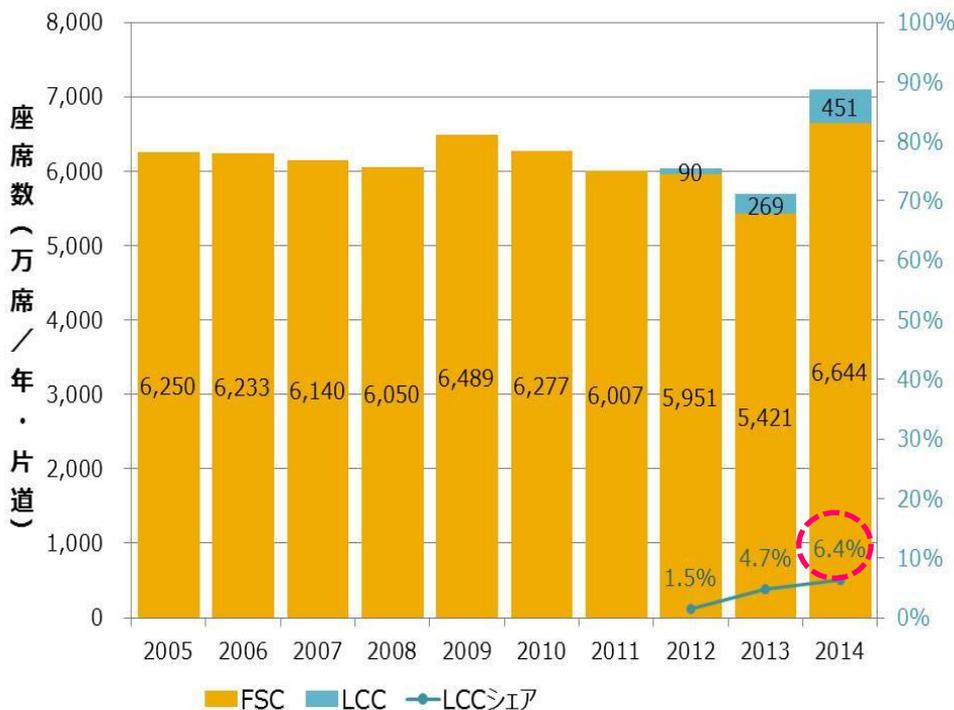
注: 2015年は1月-11月の値

出典: 出入国管理統計より作成

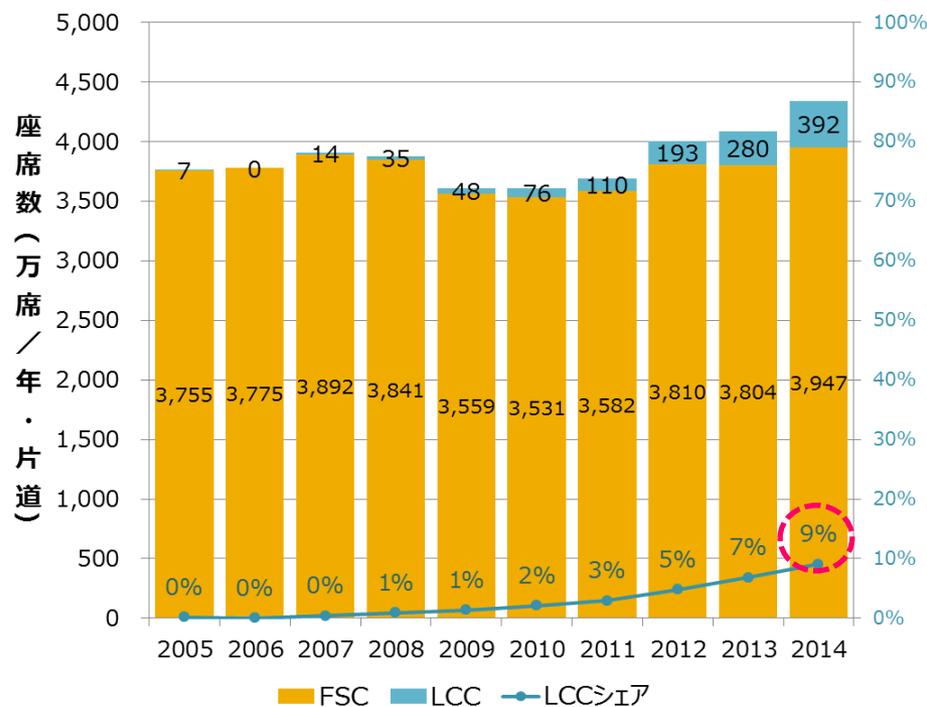
LCCの概況

- わが国の**LCCのシェア**（座席数ベース）は堅調に伸びているが、2014年におけるシェアは、**国内線が6.4%、国際線が9%**であり**未だ低水準**

[国内線提供座席数の推移]



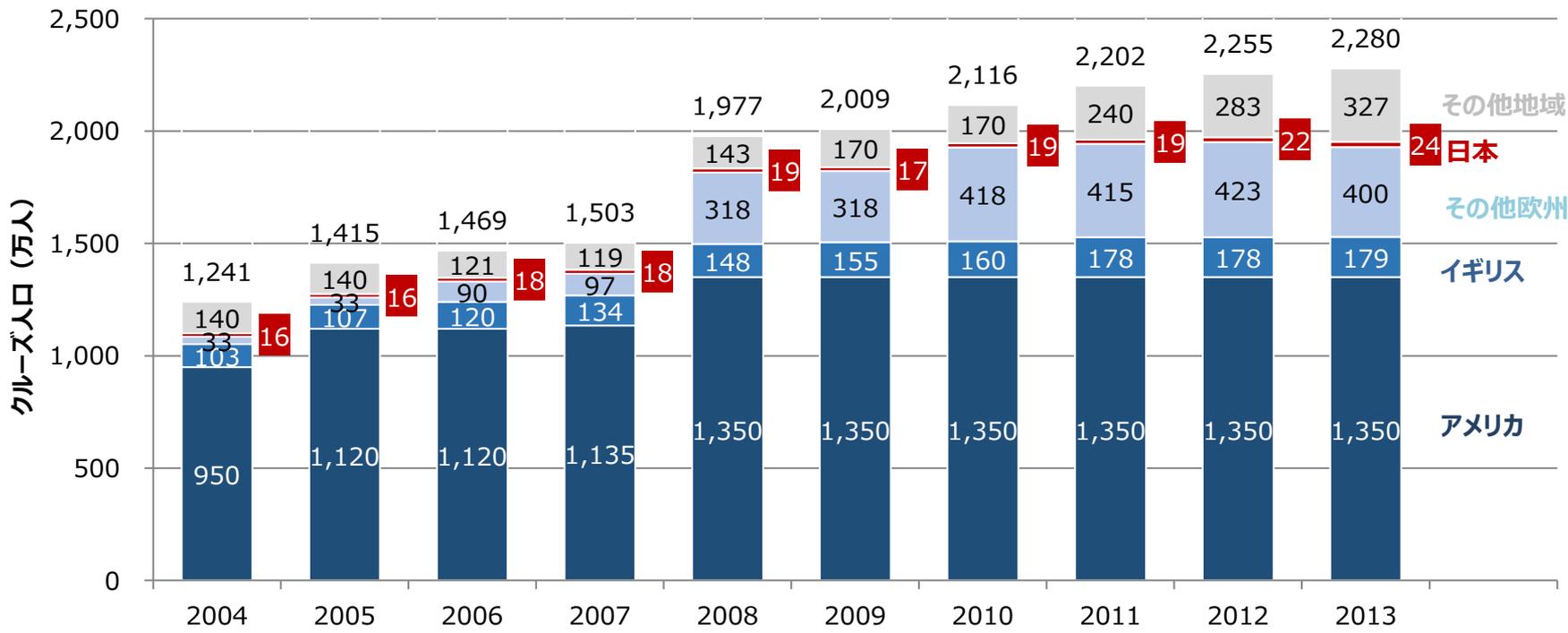
[国際線提供座席数の推移]



注：LCCとは、「Low Cost Carrier」の略称。サービスの簡素化や効率化などにより低価格の運賃を実現した格安航空会社のこと
 FCCとは、「Full Service Carrier」の略称。LCCに対し、従来からある航空会社のこと

世界のクルーズ人口の推移

- 世界のクルーズ人口は増加傾向にあり、**アメリカやイギリスなどの欧米の割合が高い。**
- 一方、**日本のクルーズ人口は約24万人で、総人口に対するクルーズ人口の比率も0.2%**と低い状況（アメリカ4.3%、イギリス2.8%）

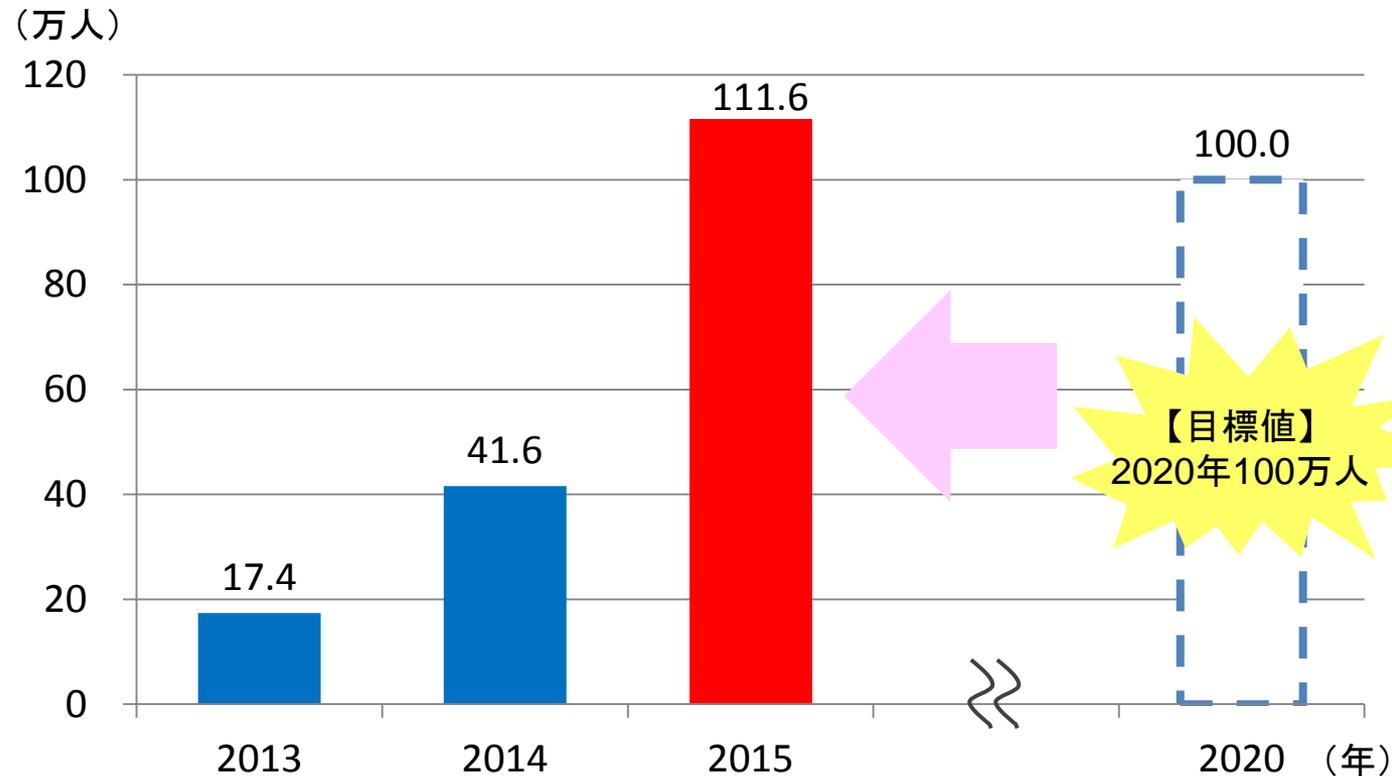


(2013年)

	人口(万人)	クルーズ人口(万人)	クルーズ人口比率(%)
日本	12,734	24	0.2%
イギリス	6,411	179	2.8%
アメリカ	31,650	1,350	4.3%

クルーズ船による外国人入国者数

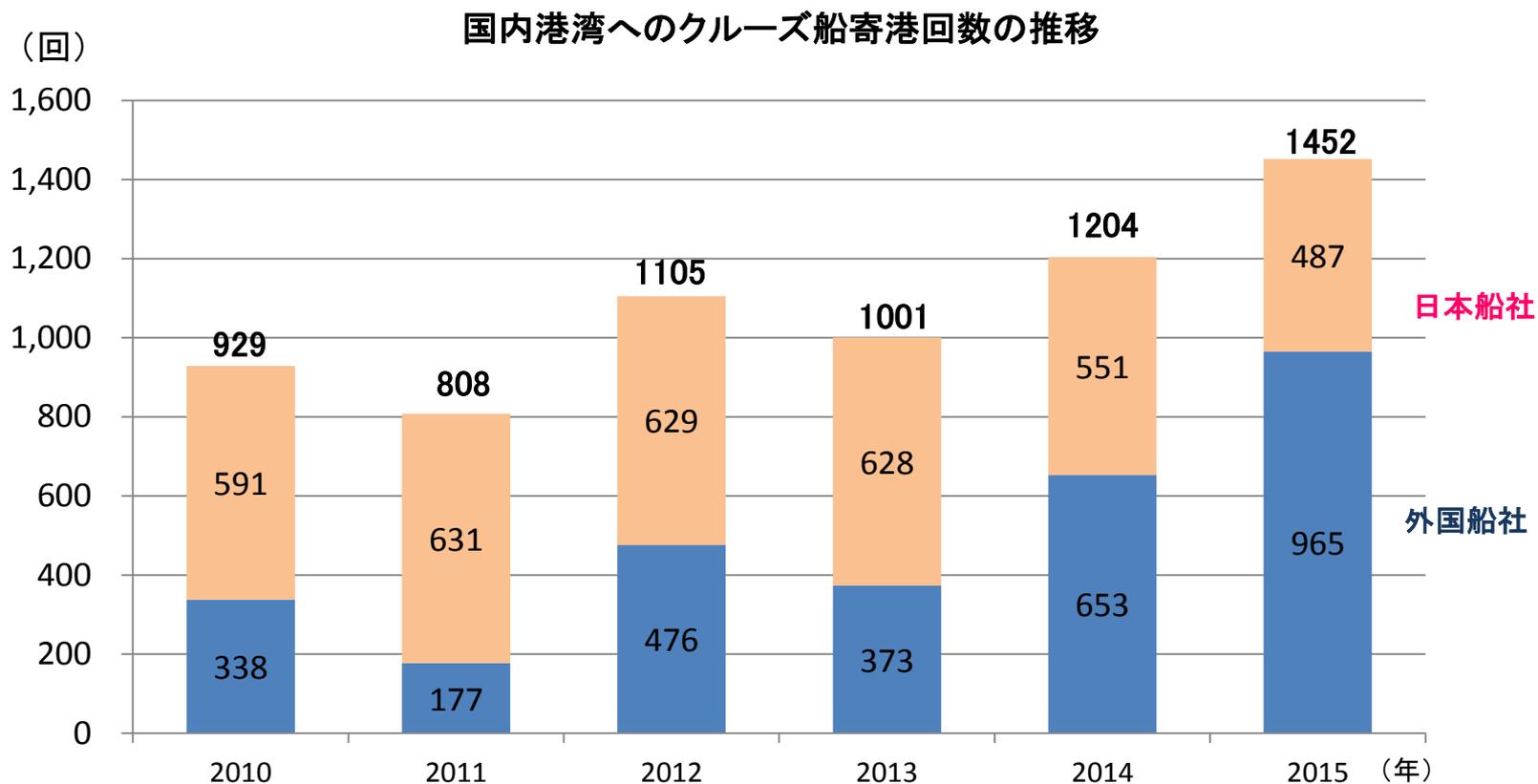
- 2015年のクルーズ船による外国人入国者数は、国が2020年に目標とする100万人を上回る**111.6万人**となり、**5年前倒しでの目標を達成**



出典:国土交通省港湾局資料より作成

国内港湾へのクルーズ船寄港回数の推移

➤ 2015年の国内港湾へのクルーズ船寄港回数は1,452回であり、増加傾向



注：2015年の数値は、速報値
出典：国土交通省港湾局資料より作成

国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移(外国船社)

- 2015年のクルーズ船（外国船社）の国内港湾への寄港回数は、中国からのクルーズ船の寄港増加などから、**過去最高の965回**を記録
- 港湾別では、博多港245回、長崎港128回、那覇港105回の順に寄港回数が多い

外国船社が運航するクルーズ船の寄港回数

順位	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年(速報値)	
	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
1	博多	61	石垣	42	博多	85	石垣	59	博多	99	博多	245
2	那覇	46	那覇	37	長崎	72	那覇	41	長崎	70	長崎	128
3	鹿児島	45	博多	26	那覇	47	長崎	35	石垣	69	那覇	105
4	石垣	45	長崎	17	石垣	46	横浜	32	那覇	68	石垣	79
5	長崎	39	横浜	9	鹿児島	27	博多	19	横浜	48	鹿児島	51
6	神戸	22	鹿児島	8	横浜	26	神戸	18	神戸	32	神戸	42
7	横浜	18	広島	6	別府 (大分県)	25	広島	16	小樽	31	横浜	37
8	広島	8	神戸	6	神戸	22	鹿児島	16	鹿児島	29	佐世保	34
9	大阪	6	大阪	5	大阪	22	大阪	12	函館	27	広島	25
10	函館	4	別府 (大分県)	4	広島	14	境	12	釧路	21	大阪	18
	その他	44	その他	17	その他	90	その他	113	その他	159	その他	201
	合計	338	合計	177	合計	476	合計	373	合計	653	合計	965

国内港湾別クルーズ客船寄港回数上位10位の推移(外国船社及び日本船社)

- 2015年のクルーズ船（外国船社及び日本船社）の国内港湾への寄港回数は、**過去最高の1,452回**を記録
- 港湾別では、博多港259回、長崎港131回、**横浜港125回**の順に寄港回数が多い

外国船社及び日本船社が運航するクルーズ船の寄港回数

順位	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年(速報値)	
	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
1	横浜	122	横浜	119	横浜	142	横浜	152	横浜	146	博多	259
2	神戸	103	神戸	107	博多	112	神戸	101	博多	115	長崎	131
3	博多	84	博多	55	神戸	110	石垣	65	神戸	100	横浜	125
4	長崎	54	那覇	53	長崎	73	那覇	56	那覇	80	那覇	115
5	鹿児島	52	石垣	49	那覇	67	東京	42	長崎	75	神戸	97
6	那覇	52	名古屋	28	石垣	52	長崎	39	石垣	73	石垣	84
7	石垣	47	宮之浦 (屋久島)	23	名古屋	43	博多	38	小樽	41	鹿児島	53
8	名古屋	27	長崎	21	鹿児島	34	名古屋	35	函館	36	佐世保	36
9	宮之浦 (屋久島)	25	広島	19	別府 (大分県)	34	二見 (父島)	29	鹿児島	33	名古屋	34
10	広島	22	鹿児島	18	大阪	33	広島	26	名古屋	30	広島	32
	東京	22										
	その他	319	その他	316	その他	405	その他	418	その他	475	その他	486
	合計	929	合計	808	合計	1,105	合計	1,001	合計	1,204	合計	1,452

出典:国土交通省報道発表資料「2015年のクルーズ船の寄港実績等について(速報値)」

国内における海外発行クレジットカード対応ATMの設置状況

- ▶ 都市銀行やコンビニエンスストア等を中心に海外クレジットカード対応ATMの設置が進んでいる。

< 主な事例 >

	全国	※カッコ内は時点
		うち都内
ゆうちょ銀行 (平成12年から開始)	約27,200台 (H27.9)	約2,800台 (H27.9)
セブン銀行 (平成19年から開始)	約22,100台 (H28.1)	約3,200台 (H27.9)
イオン銀行 (平成26年から開始)	約1,000台 (H26.9)	—
シティバンク	約50台 (H26.12)	—
合計	約5万台	—

< その他の事例 >

	取組内容
みずほ銀行	お台場海浜公園前出張所内に海外発行カード専用ATMを設置。平成27年から平成32年までに約1000台設置を予定。
三井住友銀行	浅草支店、銀座支店、六本木支店に海外発行カード対応ATMを設置。平成27年から平成32年までに約1000台設置を予定。
三菱東京UFJ銀行	平成28年から平成32年までに約1000台設置を予定。
ファミリーマート	新型ATM設置の約4000台で、「銀聯カード」が24時間365日利用可能。
ローソン	全ATM(約11,000)で「銀聯カード」の利用が可能。

近年における都内の主な外資系ホテルの新規開業状況

- 近年、都心部で外資系ホテルの新規開業が続いており、宿泊料金は1泊2万円台から14万円台と幅広く設定されている。

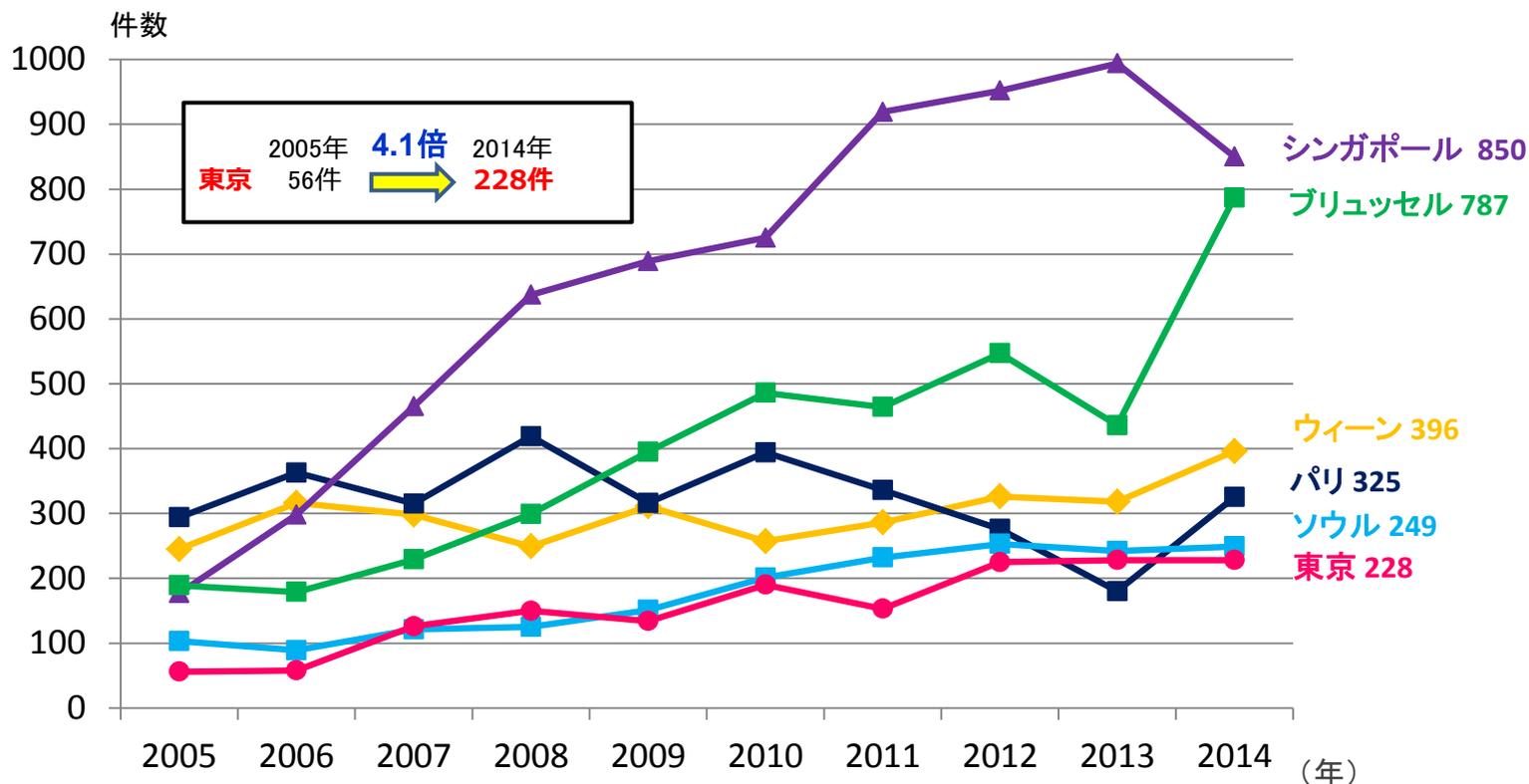
開業時期	ホテル名称	所在地	宿泊料※	客室数	系列	本社
2013年12月	東京マリオットホテル	品川区北品川 4-7-36	38,016円	249	マリオット・インターナショナル	米国
2014年4月	コートヤード・バイ・マリオット東京ステーション	中央区京橋2-1-3	27,324円	150	マリオット・インターナショナル	米国
2014年6月	アンダース東京	港区虎ノ門1-23-4	80,930円	164	ハイアット ホテルズ アンドリゾーツ	米国
2014年10月	AMAN TOKYO	千代田区大手町1-5-6 大手町タワー	146,648円	84	アマン	シンガポール

※：2016/5/14(土)大人1名の1泊料金（検索日：2/15、ワンベッドルーム最安プラン、朝食なし、割引なし、税等込）
 東京マリオットホテル：Best Rate(お部屋のみ) スーペリアキング
 コートヤード・バイ・マリオット東京ステーション：コートヤードステイ(室料のみ) クリエイターズダブル
 アンダース東京：Standard Rate アンダーズルーム(キング)
 AMAN TOKYO：デラックスルーム キングサイズベッド

出典：各ホテルのホームページより作成

世界各都市における国際会議の開催件数の推移

- 東京における国際会議の開催件数は、この10年間で約4.1倍と増加しているが、依然として競合都市であるシンガポールやソウル等に後れを取っている。

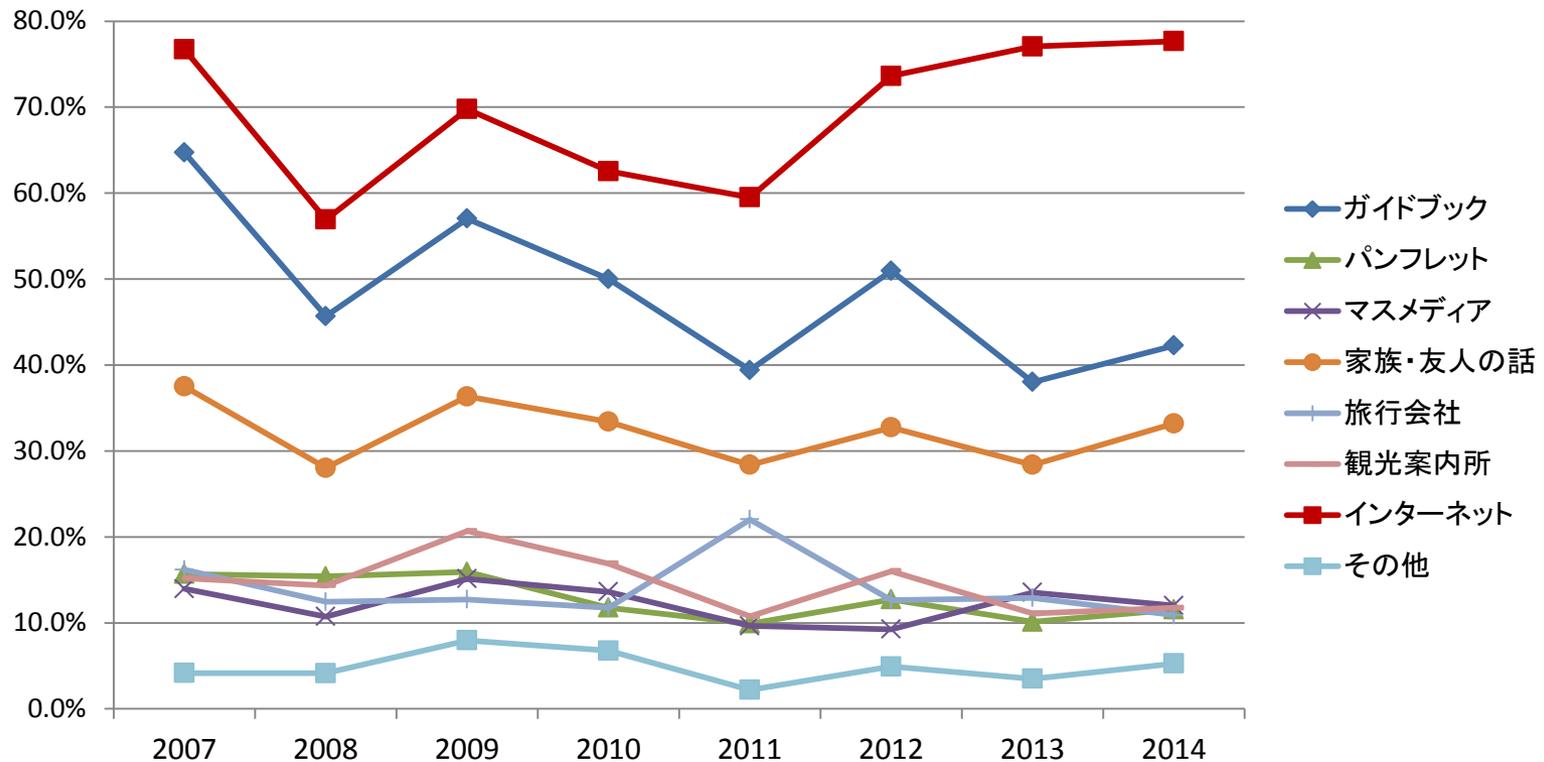


注 2014年 UIA(国際団体連合)※による一部統計数値変更後の内容を掲載(2009年以前の開催件数が変更)
 (※組織団体等に関わる情報の調査・収集・分析を行う非営利・非政府の団体で、「UIA国際会議統計」を年に一度発表している)

出典:「2014年国際会議統計」(日本政府観光局)をもとに作成

訪都外国人旅行者の情報収集方法の変遷

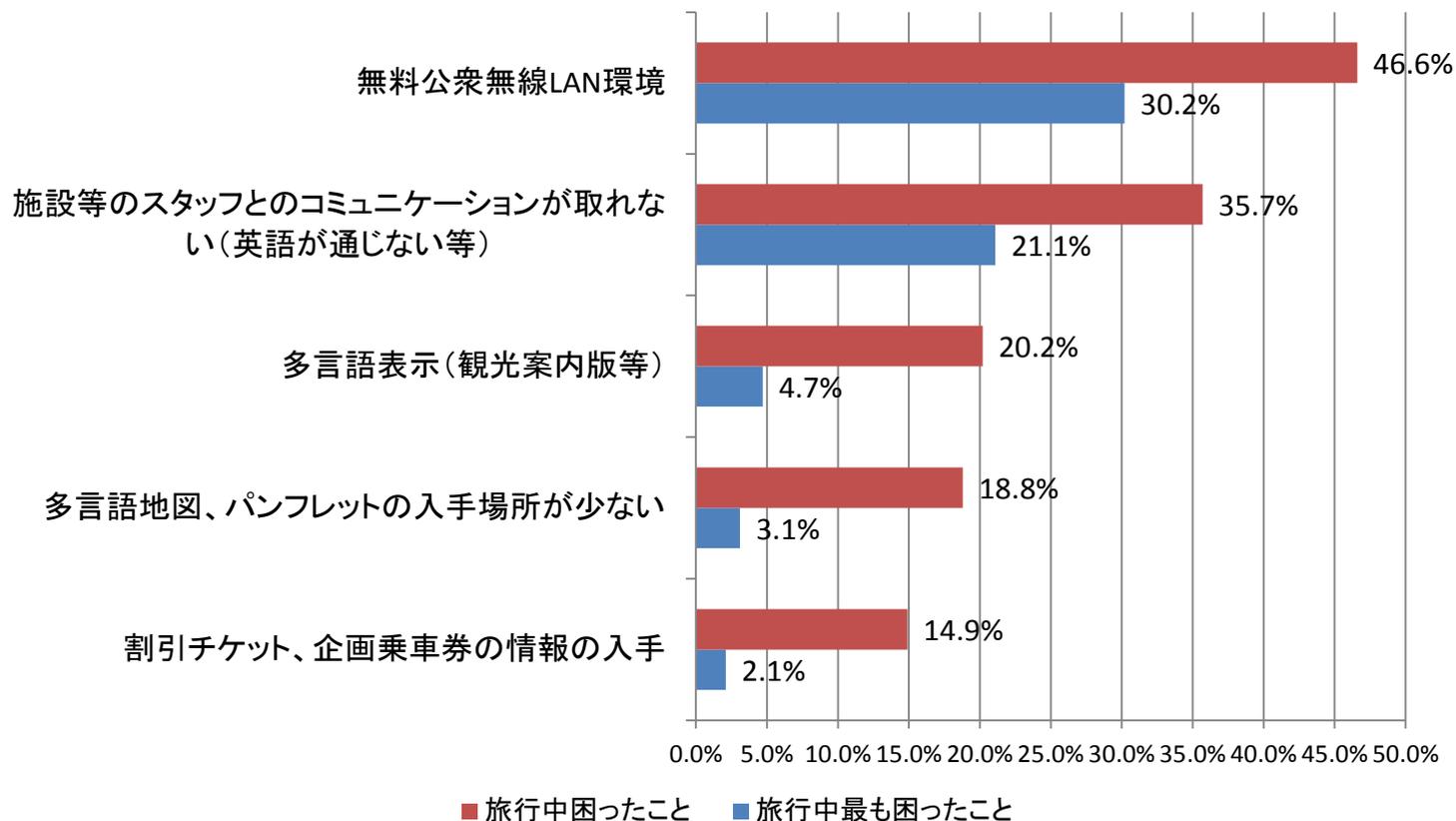
- 旅行者が観光情報を収集する主な手段は、ガイドブックなどの紙媒体から、リアルタイムで情報を容易に入手できるインターネットへと移行している。



出典:「東京都観光客数等実態調査」(東京都)

外国人旅行者が旅行中に困ったこと(2015年)

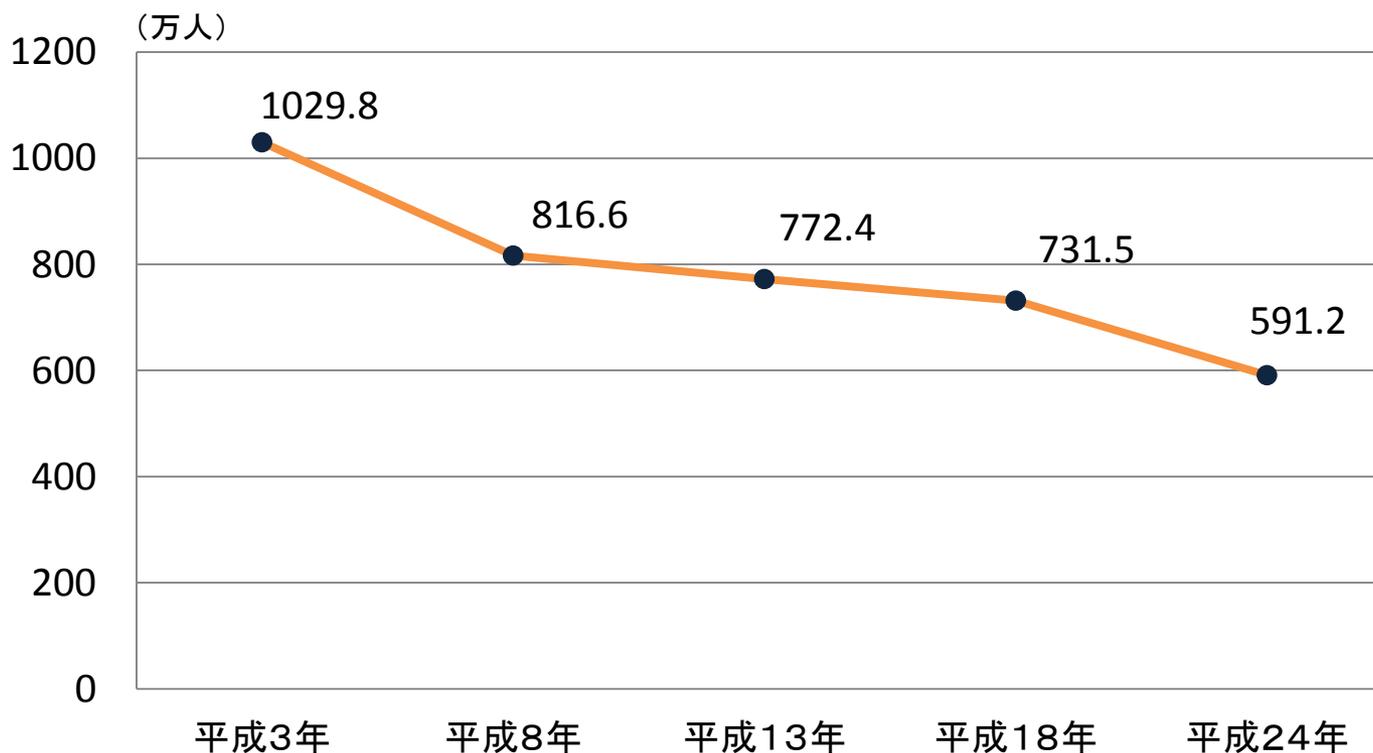
- 訪日旅行中に「最も困ったこと」、「困ったこと」の第一位はいずれも**無料公衆無線LAN環境**となっている。



出典:「訪日外国人旅行者の国内における受入環境整備に関する現状調査」(総務省、観光庁)

西多摩地域の入込観光客数の推移

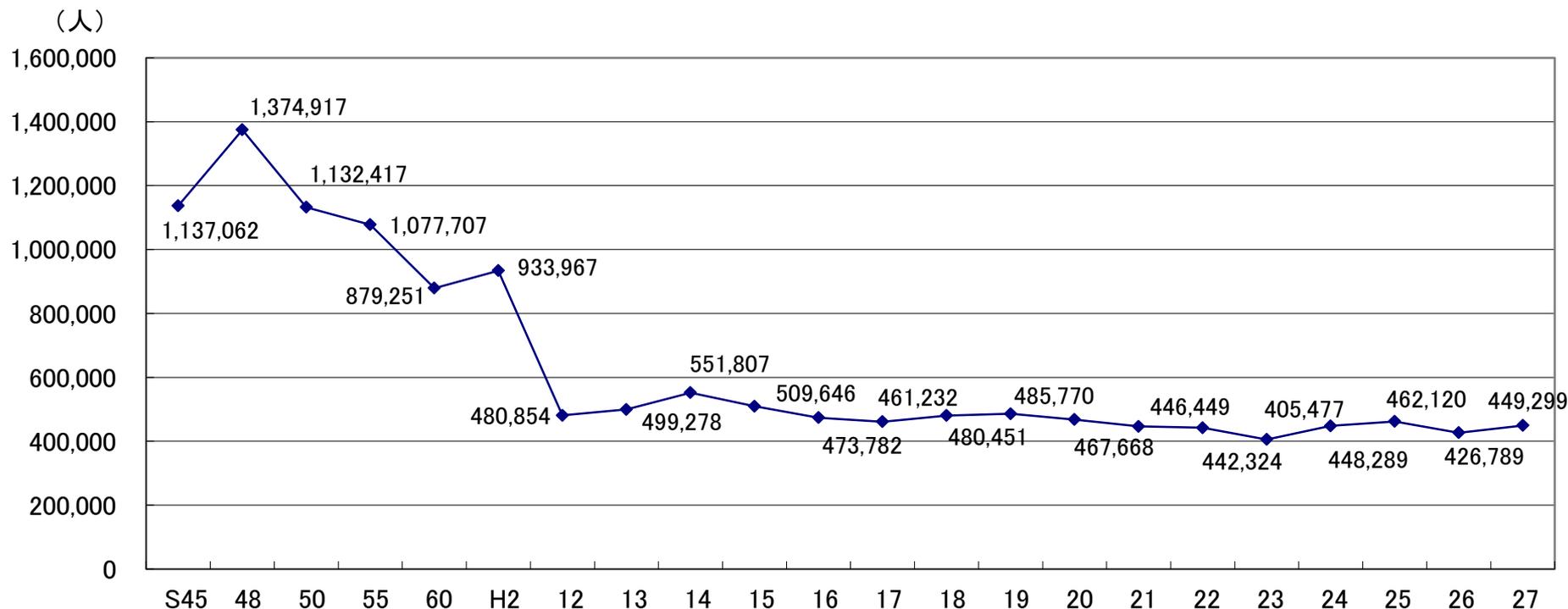
- 訪都旅行者全体の数が増加しているなか、西多摩地域への旅行者数は**長年減少**が続いている。



出典:「西多摩地域観光入込客調査報告書」(西多摩地域広域行政圏協議会)

伊豆諸島・小笠原諸島年次別観光客数推移

- 島しょ地域への旅行者数は、昭和48年をピークに長期に渡り低迷しており、依然として**ピーク時の3割程度**の旅行者数に留まっている。



出典:「伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書」(東京都)

世界の人気観光都市ランキング2016

- 昨年圏外だった東京は**世界21位**と順位を上げているものの、依然としてロンドンやパリ、ニューヨークなどの欧米の観光先進都市を下回っている。
- また、同じ**アジア地域**のハノイ（ベトナム）やバンコク（タイ）、香港（中国）等にも**後れ**を取っている状況である。

順位	都市（国名）	13位	ドバイ（アラブ首長国連邦）
1位	ロンドン（イギリス）	14位	サンクトペテルブルク（ロシア）
2位	イスタンブール（トルコ）	15位	バンコク（タイ）
3位	マラケシュ（モロッコ）	16位	アムステルダム（オランダ）
4位	パリ（フランス）	17位	ブエノスアイレス（アルゼンチン）
5位	シェムリアップ（カンボジア）	18位	香港（中国）
6位	プラハ（チェコ共和国）	19位	プラヤデルカルメン（メキシコ）
7位	ローマ（イタリア）	20位	ケープタウンセントラル（南アフリカ）
8位	ハノイ（ベトナム）	21位	東京（日本）
9位	ニューヨーク（アメリカ）	22位	クスコ（ペルー）
10位	ウブド（インドネシア）	23位	カトマンズ（ネパール）
11位	バルセロナ（スペイン）	24位	シドニー（オーストラリア）
12位	リスボン（ポルトガル）	25位	ブタペスト（ハンガリー）

- **京都市が2年連続で1位**を獲得する一方、**東京は世界ランキングでトップ10入りを逃し、アジア地区でも4位**に留まっている。

【ワールドベストシティ トップ10】

1位 京都(日本)	91.22 点
2位 チャールストン(アメリカ)	89.84 点
3位 シェムリアップ(カンボジア)	89.57 点
4位 フィレンツェ(イタリア)	89.43 点
5位 ローマ(イタリア)	88.99 点
6位 バンコク(タイ)	88.91 点
7位 クラクフ(ポーランド)	88.69 点
8位 バルセロナ(スペイン)	88.59 点
9位 ケープタウン(南アフリカ)	88.27 点
10位 エルサレム(イスラエル)	88.18 点

【アジア地区 上位10都市】

1位 京都(日本)	91.22 点
2位 シェムリアップ(カンボジア)	89.57 点
3位 バンコク(タイ)	88.91 点
4位 東京(日本)	85.25 点
5位 香港(中国)	83.98 点
6位 シンガポール	82.46 点
7位 ハノイ(ベトナム)	82.26 点
8位 上海(中国)	81.91 点
9位 ホーチミン(ベトナム)	80.48 点
10位 ニューデリー(インド)	80.10 点

注:ワールドベストシティは上位10都市までしか公表されていない(東京は10位圏外)

出典:「観光産業ニュース・トラベルボイス」(トラベル・アンド・レジャー)

<http://www.travelvoice.jp/20150708-46304>